

WHO健康開発総合研究センター 諮問委員会 (ACWKC)

第26回会合報告書

2022



目次

2	要約
5	開会
6	戦略的成果と課題
10	研究成果
16	地元との連携強化：地域社会への貢献
18	提言
20	結論
21	付属資料

WHO健康開発総合研究センター（WHO神戸センター）はユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）とイノベーションの実現に向けたグローバルな研究拠点です。日本をはじめとするアジア太平洋地域、および世界で得られた教訓をもとに、UHC、医療経済、高齢化、そして、災害・健康危機管理の各分野で研究を行う強みを生かし、公正で持続可能なUHCを実現するためのイノベーションと研究を推進することが我々のビジョンであります。

©WHO Centre for Health Development 2022

WHO健康開発総合研究センター（WHO神戸センター）

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1

I.H.D.センタービル9階

電話：078-230-3100

www.who.int/kobe_centre/ja

要約



WHO健康開発総合研究センター（WHO神戸センターまたはWKC）は、神戸グループ¹からの支援とWHO理事会の承認を受けて1995年に設立されました。WKCの「2018年～2026年研究計画」は、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の推進を加速させることを目的とした、高齢化と災害・健康危機管理（Health EDRM）を見据えた保健医療制度の研究を掲げています。WKC諮問委員会（ACWKC）は、WHO事務局長（DG）の任命を受けたWHOの6地域、日本政府、地元地域、および神戸グループの各代表で構成されています。2022年11月10～11日に開催された第26回会合では、WKCの戦略的優先課題について事務局長とWKC所長に提言を提出しました。

会合では、WKCの2021～22年における研究と地元連携活動、および2021年の諮問委員会の提言を受けて実施された活動の進捗状況が討議されました。議長のピロージ・タンチャロエンサティエン委員と書記のアイリーン・アジェボン委員が諮問委員会の結論と以下の提言を発表しました。

祝辞：

- 研究事業、出版物、地元との連携においては、限られた人員と財源の中で、前年の諮問委員会の提言を十分に反映させ、素晴らしい成果を上げた。
- 広報活動においても、特にCOVID-19のパンデミックに関連した貢献が大きく、またポリシーブリーフ、ソーシャルメディアプラットフォーム（SNSなど）など様々な媒体を活用したことや、事業成果報告書2020～21年（WKC初の二カ年報告書）を発行したことなどを高く評価する。

¹ 兵庫県、神戸市、株式会社神戸製鋼所、神戸商工会議所

諮問委員会の提言:

1. 兵庫・神戸、日本、および海外の政策立案者や他のステークホルダーとの協議を通じて、2026～2036年 の研究戦略の方向性について優先すべき課題の特定および確定を行う。
2. UHCと高齢化の文脈において、a) 医療従事者の大量離職、b) 認知症や高齢者の複雑なニーズに対応できる、多職種連携にもとづく機能的なプライマリヘルスケア (PHC) モデル、c) 食料安全保障をはじめとするワンヘルス(One Health)の問題など、新たな研究課題の追加を検討する。
3. WKCはWHO本部直轄のグローバルな性質を持つ研究機関であるため、その研究は WHOの第 13次総合事業計画 (GPW13 - 2023年までに数十億の人々の健康を改善することを目指す) および 持続可能な開発目標 (SDGs) に沿う必要がある。また、WHO本部と地元兵庫神戸両者の期待に応えるため、「地域社会にも世界にも有意義な」健康課題を特定する必要がある。
4. WKCが既に取り組んでいる、a) 高齢化、b) UHC、c) 災害・健康危機管理の三つの研究分野はWKC固有のニッチであり、それぞれ世界および地元で関心の高い課題であり、今後もWKCの研究テーマとして継続する。
5. WKCの長年蓄積してきた知見に基づき、また低・中所得国における急速な高齢化と認知症罹患率の増加という背景の下、WKCは、神戸認知症研究から得られた知見である、認知症の発見、予防、管理に資するツールを国内外の広い環境への適用を通じて、研究ポートフォリオを多様化し、政策や実践に役立てる高い可能性を持つ。
6. 「SDG指標に関する機関間専門家グループ (IAEG-SDGs)」が SDGs 指標 3.8.3 の第1次指標として「未充足の健康ニーズの発生率」を含めることを決定した場合、未充足の健康ニーズに関する研究は、主要な研究分野になりうる。既存の全国規模の世帯調査などに未充足のニーズのモジュールを挿入できるように、調査項目の標準化に努めたり、高齢者の未充足の介護・社会的ケアニーズについても分析や発生率の算出を行う。
7. WKCはグローバルな研究コンソーシアムの設立を通じ、未充足の保健医療ニーズとその決定要因および解決策としてのサービス提供や経済的リスク保護の強化に関する研究課題を推進する上で優位を獲得する。
8. 災害・健康危機管理 (Health EDM) 分野でWKCが管理するポータルサイトは非常に重要な情報源であり、WKCの優れた成果である。政府間交渉機関 (INB) を通じたWHOパンデミックアコードに向けた国際交渉の文脈を踏まえ、WKCの災害・健康危機管理分野の研究を世界共通の課題である公衆衛生上の緊急事態に対象を拡大することを検討してもよいかもしれない。高齢のCOVID-19感染者における長期的な影響、例えば罹患後症状や生活の質 (QOL)、死亡などへの影響に関する研究などが考えられる。
9. 兵庫・神戸、関西地域、日本国外の研究パートナーと引き続き協力し、WKCの研究を通じて得られた様々な「エビデンス」を最大限活用するため、実装研究を支援し、研究成果の政策や実践への取り込みを促進するとともに、その影響を評価する。
10. 地元との連携においては、WKCの調整担当官の機能を強化し、神戸グループとの連絡調整を行い、相互理解を深めるとともにWKCフォーラムやWHOサマースクールなど、若者・研究者・地方自治体関係者を巻き込んだイベントを通じて引き続き地元との連携を強化する。
11. Health Systems Global 2024 (HSR 2024-保健医療制度研究に関する世界最大の学会組織) が隔年に行う国際シンポジウムを2024年には長崎大学と国際協力機構 (JICA) が共同開催することを最大限に活用し、WKCの研究成果を広めるとともに、WKCのグローバルな認知度を高め、またWKCの今後 (2026～2036) の戦略的方向性に関して世界のステークホルダーからインプットを得る。

2022年諮問委員会



議長

ピロージ・タンチャロエンサティエン博士
国際保健政策計画財団 (IHPP)
シニアアドバイザー
WHO南東アジア地域 (SEAR) 代表



書記

アイリーン・アクア・アジェボン博士
ドドワ医療研究センター
公衆衛生コンサルタント
WHOアフリカ地域 (AFR) 代表



齋藤元彦氏

兵庫県知事
(来賓)



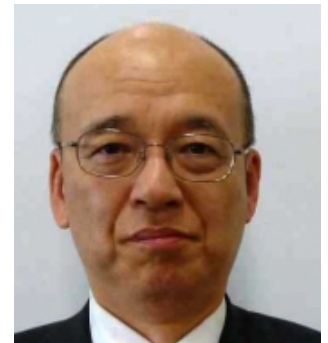
マゲッド・アルシャービニ教授
ダイレクト・エイド・インターナショナル
高等教育シニアアドバイザー
WHO東地中海地域 (EMR) 代表



クレメンス・マーティン・アウアー博士
ガスタイン欧州保健フォーラム
会長
WHO欧州地域 (EUR) 代表



日下英司博士
厚生労働省大臣官房
国際保健福祉交渉官
ホスト国政府代表



片山安孝氏
兵庫県副知事
神戸グループ代表



スーンマン・クウォン教授
ソウル大学公衆衛生大学院
医療政策管理学部教授
WHO西太平洋地域 (WPR) 代表



デービッド・リンドマン博士
カリフォルニア大学バークレー校
社会の関心にかかわる情報技術研究
センター (CITRIS)
保健担当部長
WHO米州地域 (AMR) 代表



坂下玲子教授
兵庫県立大学副学長
地元代表



サラ・ルレイズ・バーバー博士
WHO健康開発総合研究センター
(WHO神戸センター)
所長

1

開会

WHO健康開発総合研究センター(WKC)所長のサラ・ルイーズ・バーバーがWKC諮問委員会(ACWKC)2022年会合にあたり開会挨拶を行いました。諮問委員会にホスト国政府代表として厚生労働省大臣官房 国際保健福祉交渉官の日下英司委員と、WHO欧州地域(EUR)代表としてオーストリアのガスタイン欧州保健フォーラム(EHFG)会長、クレメンス・マーティン・アウアー委員の2名の新委員が加入されました。兵庫県の齋藤元彦知事が神戸グループから来賓としてビデオメッセージを寄せられ、WKCのサマースクールおよび学生フォーラムについて謝意を述べられました。日下委員はホスト国政府を代表して会合参加者に祝辞を述べ、会合の成功に期待を寄せられました。WHOのUHC・健康づくり部門事務局長補(ADG)の山本尚子は諮問委員会に歓迎のメッセージをビデオで述べました。

WHO南東アジア地域(SEAR)代表のタンチャロエンサティエン委員が諮問委員会議長としてWKCの活動を称え、特に、WHO第13次総合事業計画(GPW)および持続可能な開発目標(SDG)3.8にまさしく対応している点に注目しました。諮問委員会は、書記にWHOアフリカ地域(AFR)代表のアジェポン委員を選出しました。WHO米州地域(AMR)代表のデービッド・リンドマン委員からは欠席の旨、謝罪が伝えられました。

2

戦略的成果と課題

バーバー所長は、WKCの活動に対する二つの総合的な外部評価（レビュー）に対応した取り組みの進捗状況、2021～22年におけるWKCの研究成果、および2021年諮問委員会の提言への対応について概要を述べました。WKCの研究機能を強化するためのWHO事務局長によるWKCタスクフォースの提言、およびWKC・神戸グループ合同中間評価に対応して、WKCは5カ年運営計画を作成し、世界的に重要な研究について海外と関西圏の研究機関との連携を強化し、2022～23年には、WHOのグローバルな旗艦出版物（テクニカル・フラッグシップ・プロダクト）2件を主導しています。WKCはガバナンスと地元連携の改善を図るため、諮問委員会およびScientific Working Groupに対する付託条項を見直し、地元連携戦略の草案を作成し、さらにリソース動員（資金調達）戦略の草案を作成してWHOのリソース動員ユニット（WHO Resource Mobilization Unit）と協議を開始しました。WKCは研究成果の地元還元を強化するため、引き続き地元における認知度を高めるよう努めるとともに、研究成果を広く地域社会に普及させ、その活用を促します。また、WKCは広報と普及活動を強化するため、2人のコンサルタントを雇用しました。

不測の事態が重なり進展が滞る課題がありました。2022年、東京にUHCのグローバルな中核的研究拠点となるセンターを設立するため、WHO事務局長（DG）と日本政府（GoJ）はそれぞれのタスクフォースを設置しました。さらに同じ年にWHO幹部の大幅な入れ替えがありました。この結果、WHO幹部が主導したWHO、神戸グループ、日本政府の3者会談やWHOコア資金の獲得などを含む**WKCタスクフォースの提言は延期される**ことになりました。

バーバー所長は、3つの研究テーマに従い神戸センターの2022年の主要成果について概要を述べました。**サービスの提供と持続可能な資金調達**に関しては、2件の主要な研究アジェンダ、「ASEAN諸国における人口高齢化に対応した保健医療制度」と「神戸認知症研究」が完了しました。神戸市との新たな共同研究プロジェクトとして、COVID-19による健康二次被害の影響について、神戸市のヘルスケアデータ連携システムの二次解析を伴う研究を準備中です。2022～23年は医療介護の持続可能な資金調達を研究の重点とし、その中には「経済および保健医療財政に対する人口高齢化の影響に関する研究」の継続が含まれています。また、2件のWHO旗艦プロジェクトもこれに含まれます。1件目は継続的なケアにおける資金調達に焦点を当て、2件目は慢性疾患に対する質の高い保健医療サービスを強化するための購入手段に焦点を当てています。

第2の研究テーマは、世界的な高齢化を見据えた**UHCの指標と測定**です。WKCは保健医療の利用における経済的保護とアクセスの公平性に関する世界的な分析をこれまでに行ってきましたが、現在は、関西圏における関連研究を実施中です。もう1つの研究の柱は、高齢者における医療および社会的ケアの未充足（アンメット）ニーズのより正確な測定に向けた研究を進め、それに貢献できるグローバル・リサーチコンソーシアムを設立することです。

第3の研究テーマは、**災害・健康危機管理 (Health EDRM)** です。この分野は大幅に拡充されており、その中心的活動は200人を超える専門家を擁する「災害・健康危機管理に関するWHOグローバルリサーチネットワーク」(Health EDRM RN)のもとで行われ、WKCはここでWHOの事務局の役割を果たしています。「災害・健康危機管理の研究手法に関するWHOガイダンス」はこのネットワークから生まれたもので、常に最新の情報が提供されるLiving referenceとして定期的な更新が行われています。2022年の更新ではCOVID-19に関する章が加わりました。これらを地元関西および日本全国で普及するため、現在、数十名の日本の専門家の協力を受けながら日本語への翻訳作業が行われています。また、個別の研究テーマに関する5件のプロジェクトも進行中です。

WKC研究計画で特定された各成果指標も達成されました。**2021～22年には60点を超える文書、書籍、学術論文が出版され、**その中には、経済開発協力機構 (OECD) と共同出版した2点の書籍、およびWHO欧州保健制度政策観測所と共同出版したポリシーブリーフと報告書が含まれています。「**高齢化による保健医療制度の財政的持続可能性ギャップ (PASH) シミュレータ**」も開発されました。さらに、「**災害・健康危機管理の研究手法に関するWHOガイダンス**」を普及させるため、ビデオ、ポッドキャスト、ソーシャルメディアなどのコンテンツも作成しました。WKCの研究は、WHO-世界銀行の「保健医療分野における経済的保護」および「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) の追跡」に関する両グローバルモニタリングレポート、WHO国際健康観測所 (WHO Global Health Observatory)、WHO地域事務局の報告書など、WHOのグローバルな主要出版物にも掲載されました。準備中の出版物の中には、2022年に刊行を予定している国際医療ジャーナルの特別号があり、そこに掲載される予定の10件の論文は、高齢化に対応する保健医療制度をテーマに2017～18年に開始したWKCの一連の研究の成果を発表するものです。ジャーナル特別号の第2弾は、2023年に刊行予定で、そこではOECDと共同で行われた保健医療サービスの価格設定と継続的なケアサービスに関する7件の研究結果が紹介されます。

WKC地元連携計画には3つの目標があります。第1の目的である、SDGsの達成に向け国を越えた協力を促進するため、WKCは関西を拠点とする11の研究機関との連携を確立するとともに、関西を拠点とした多くのパートナーを含むHealth EDRM RNの事務局の役割を果たしてきました。第2の目標は、WKCの研究活動の広報に努めることです。WKCは、2020～21年事業成果報告書²を出版し、地元で研究成果を発表し普及させるため、2021～22年にはWKCフォーラムを7回開催しました。第3の目標は、地元のコミュニティへの貢献をすることです。WKCは2021～22年に学生への講演を70回以上行い、地元の各種専門委員会に15回参加し、さらにWHOがCOVID-19に関して作成した専門家向けガイドラインおよび一般向け文書を230件以上日本語に翻訳しました。WKCはまた、神戸グループとのコミュニケーションを公式な会合の場だけでなく、必要に応じた会議も設けるなどして、相互理解の強化に努めました。

WKCは2021年諮問委員会の提言に対応しました。研究を拡充しCOVID-19を含めるという提言に対応し、COVID-19は、継続的なケア (LTC) における資金調達に関する研究、「災害・健康危機管理の研究手法に関するWHOガイダンス」、および神戸市との新研究計画に盛り込まれました。諮問委員会が提言した定性的研究は、すべての研究分野で組み込まれています。第3の提言は、ポリシーブリーフに加え、他の形態の研究成果の普及活動の取り組みを強化することでした。これについては、WHO技術者ネットワーク (WHO Technical Expert Networks) を地域および各国の事務局とつなげる中で取り組んでいるところです。政策立案者に対するフォーラムを拡大するという第4の提言は、Health EDRM RNを通し、またアウトプット開発チーム (Output Development Teams) およびWHO幹部へのプレゼンテーションによる本部との継続的な関わりを通し行われているところです。第5の提言は、COVID-19の対応におけるコミュニティと地方自治体の役割を追求することでした。これについては、コミュニティの強靭性 (レジリエンス) に関する災害・健康危機管理の研究プログラムの開発により行われました。

² 「2020～21年事業成果ハイライト (Biennium Achievements 2020-21)」WHO健康開発総合研究センター、2022年 (https://extranet.who.int/kobe_centre/en/achievement_reports)。

第6および第7の提言は予算を重点としたもので、神戸グループのコミットメントを維持すること、WHOのコア予算配分を確保すること、および日本の厚生労働省からの新たな資金を検討することなどでした。予算の大部分は神戸グループから拠出されており、これに厚生労働省の支援が加わり、共同研究プロジェクトも請け負っています。WHOのコア資金を要望しています。バーバー所長は、活動（研究）費用の資金調達の多様化の重要性を認識し、神戸グループ、厚生労働省、および共同資金調達メカニズムによる支援を挙げました。リソース動員戦略の草案を作成し、現在WHOのリソース動員部門（Resource Mobilization Unit）と協議中です。

第8の提言は、WHOの旗艦出版物（フラッグシップ・プロダクト）に最大限貢献することでした。WKCは現在、2件のWHOフラッグシップ・プロダクトを主導しており、2023年に完成させる予定です。諮問委員会の会合について組織的な改善を図るという第9の提言については、本年、会合の効率性を向上させる取り組みがなされました。最後の提言は、ダッシュボードやインフォグラフィック（情報画像）を使って、WKCの研究の成果と政策実践を発表することでした。今年の初め、WKCは2年ごとの2020～21年事業成果報告書を発表し、2018～26年研究計画の付属資料を更新して具体的な成果指標を織り込んだ5カ年運営計画を盛り込みました。続いてバーバー所長は、次の10年（2026～36年）における今後の研究の戦略的課題とWKCの比較優位を中心に、諮問委員会に一連の質問を投げかけました。

指名された2名の委員がその後の討議をリードしました。アジェボン委員は諮問委員会の2021年提言に対するWKCの対応を称賛しました。認知症リサーチの比較研究を行うことで、1都市で学んだ教訓をそれにとどまらずその意義を広めるよう提案しました。また、長崎大学と国際協力機構（JICA）が共同ホストとなるグローバル分野の国際シンポジウムHSR2024に加わることを提案しました。リンドマン委員は、会合に先立ち、書面でコメントを提出していました。そのコメントは、主に諮問委員会の2021年提言に対するWKCの対応についての内容で、具体的な研究成果の普及を促進するため、研究結果を政策プロセスに取り入れることにさらに注力するよう提案していました。また、WHO、慈善団体、および日本政府から資金を確保する助けとなる推進者を探すよう提案していました。リンドマン委員は2020～21年事業成果報告書、5カ年運営計画、および完了した研究と成果物の数に感心していました。ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）と災害・健康危機管理（Health EDRM）の普及の取り組みを評価し、デジタルコミュニケーション（ウェブサイト、ソーシャルメディア、ニュース記事）の活用が効果的との考察がありました。また、ケアおよび未充足ニーズの具体的な測定と指標に関しては、国際的な合意を得る取り組みが継続すべき重要なリサーチであると留意しました。地元との連携活動も高く評価し、パンデミック時の関西圏に対する見事な働きかけから、関西を拠点とする研究機関との持続的な連携に大きな進展が見られたとしています。

諮問委員会のメンバーは、今後10年間の戦略的な研究課題を検討し始め、2023年には関連するステークホルダーからインプットを募るよう提案しました。具体的な研究分野としては、医療従事者の大量離職、プライマリ・ヘルスケア（PHC）の機能モデル、特に認知症に関する分野横断的ケア、食料危機や農業部門との関連性を含む「ワンヘルス（One Health）」などが含まれていました。

タンチャロエンサティエン議長が討議をまとめました。議長は、近い将来の主要な政策課題としてユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）に力点を置き、COVID-19のパンデミックによる進展の停滞に留意しました。議長は、未充足ニーズの課題が、サービスカバレッジと経済的保護の測定と理解を促進する重要なコンセプトであること、またWKCにとって未充足ニーズの測定に関する研究は重大で、強力な分野となることを特に強調しました。議長はまた、WKCにとって認知症は世界的に差し迫った需要のあるもう1つの分野であることに留意しました。タンチャロエンサティエン議長は、WKCの重要な強みの1つは出版物にあると考え、特にWKCの職員数の少なさを考慮すると、システムティックレビュー、リアリストレビュー、および低・中所得国に焦点を当てたメタ分析に重点を置くことを提案しています。タンチャロエンサティエン議長はアジェボン委員に同意し、HSR2024がWKCにとって戦略的に重要な機会であるとししました。

要点:

- 2021～22年には60点を超える書籍、論文、テクニカル文書が出版された。WKCの研究は、WHO-世界銀行「保健医療分野における経済的保護」および「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) の追跡」に関する両グローバルモニタリングレポート、WHO国際健康観測所 (WHO Global Health Observatory)、WHO地域事務局の多くの報告書など、WHOのグローバルな主要出版物やプロジェクトに情報提供している。
- 2021～22年にはおおむね14件の研究プロジェクトが完了し、10件が進行中である。UHCに関する研究はサービスの提供モデルから持続可能な資金調達と未充足ニーズの測定に移っている。災害・健康危機管理 (Health EDRM) に関する研究は、WKCが「災害・健康危機管理に関するWHOグローバルリサーチネットワーク」(Health EDRM RN) の事務局の仕事を中心にするにより拡大している。
- WKCタスクフォースの提言、中間評価、および諮問委員会の2021年提言の実施において着実な進展が図られた。
- 諮問委員会のメンバーは、未充足ニーズに関する研究アジェンダの重要性、一次データ分析から二次データ分析への移行、および具体的な研究成果の普及を促進するため研究結果を政策プロセスに取り入れることを強調した。
- 諮問委員会のメンバーは、グローバル分野の国際シンポジウムHSR2024に加わるチャンスを活かすこと、またWHO、慈善活動、および日本政府から資金を確保する助けとなる推進者を探すことを提案した。

3

研究成果



3.1 UHC—人口高齢化を踏まえた指標と測定

WKCのローゼンバーグ・恵美技官が、指標と測定に関する研究成果と現在進行中の研究について発表しました。一つ目の優先研究分野である、高齢者の未充足の医療介護ニーズに関する世界的な研究状況を分析するという一つ目の優先分野では、3件のプロジェクトが完了しました。1件目のプロジェクトは、**高齢者に必要な医療サービスとその公平な提供に関わる重要な理論と概念に関するグローバルレビューで、その多くは定性的研究から見出された知見で、**高齢者の複雑な保健医療ニーズ、意思決定能力、および高齢者にとってのサービスの利用しやすさの重要性を強調しました。2件目のプロジェクトは、**高齢者の受診控えによる未充足ニーズの発生率を推定した研究を対象にしたグローバルなシステマティックレビューとメタ分析で、その多くが高所得国における研究で、**そうした国々では、65歳以上の高齢者の受診控えの割合が31歳から64歳の成人に比べほぼ2倍となることが分かりました。3件目のプロジェクトは、2001～19年の間に実施された17件の異なる調査から得られた**世界83か国のデータを用いた二次分析によって高齢者の未充足ニーズの発生割合を推定しました。**いずれの調査も自己回答式で行われたもので、分析の結果、60歳以上的高齢者で未充足の医療ニーズが50%もの高率の国もあることが示されました。また、UHCのサービスカバレッジ指標の数値が高い国では高齢者における医療ニーズの未充足率が低い傾向にあることが強調されました。これらの研究結果は、WHOと世界銀行が共同発行する2021年版「保健医療分野における経済的保護に関するグローバルモニタリングレポート」および「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) の追跡：2021年版グローバルモニタリングレポート」で引用されました。

高齢化を踏まえたUHCのモニタリングに関する新しい指標開発という2つ目の優先研究分野では、2件のプロジェクトが完了しました。最初のプロジェクトでは**WHO初となるSDGグローバル指標3.8.2の年齢構成別評価**を行いました。この指標は家計にとって破滅的な医療費を指し、医療費の自己負担分が総消費あるいは総所得の10%または25%を超える場合と定義されています。92カ国のデータ分析により、60歳以上の高齢者が少なくとも1人いる世帯でこのような高額医療費負担の割合が最も高い事が示されました。これらの研究結果は、2021年版「保健医療分野における経済的保護に関するグローバルモニタリングレポート」で注目され、今後、各国の政策に貢献したり、経済的保護に関する指標データの世帯年齢構成別の分析や報告が定着することが期待されています。2件目の研究では、**ベトナムの高齢者の高齢者における自己負担分医療費の詳細**について、3省で60歳以上の1,536人から収集した調査データの分析が行われ、セルフメディケーションが高齢者の大きな経済的負担の原因となることが分かりました。ステークホルダーに対するインタビューの定性分析から、医療保険のカバレッジ・ギャップの可能性が明らかになりました。この研究は各国およびWHO西太平洋地域の高齢者施策に情報を提供しており、WKCが企画するBMCのHealth Research Policy and Systems誌特別号で発表することも承認されています。

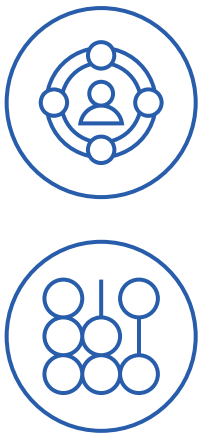
さらに2件の研究プログラムが進行中です。第1の分野は、引き続き高齢者の未充足の医療介護ニーズの測定に関するものです。このテーマについてWKCが近年実施してきた一連の研究を基盤として、次のフェーズでは、**グローバル・リサーチコンソーシアムを組織し、高齢者の未充足ニーズを測定するためのデータと手法を向上させることに取り組みます。**2023年末までにリサーチコンソーシアムを設立し、研究アジェンダを策定するため、2023年初めには一連の専門家協議の開催を予定しています。第2の分野には、**関西に焦点を当てた2件の研究が含まれており、これは医療における高齢者の経済的保護に関するグローバルな研究アジェンダにつながっています。**そのうち1件は二次データを用いた定量的研究で、自己負担の医療費支出の度合いを、65歳以上の高齢者のいる世帯といない世帯とで比較分析します。もう1つは、高齢者が医療の受診に際して経済的困難に直面してしまう要因や、そうした高齢者に経済的サポートを提供しようとするときにソーシャルワーカーが直面する障壁に関する定性的研究です。

2021年諮問委員会の提言について、まず、研究アジェンダに継続的なケア（LTC）を含めるという提言に対応し、高齢者の未充足ニーズおよび経済的保護に関する両方の研究でLTCの問題を取り上げています。COVID-19のパンデミックが高齢者の医療とLTCへのアクセスおよび未充足のニーズにもたらした影響の研究を行うという提言については、神戸市と共同で現在計画中の新しいプロジェクトで取り上げる予定です。最後に、研究成果を様々な方法で効果的に発信するという提言に対応して、ウェビナー、WHOの旗艦報告書、および学術誌の特別号などを通して、研究成果発表の手法の多様化に継続して取り組んでいきます。

WHO西太平洋地域（WPR）代表のスーンマン・クウォン委員がその後の討議をリードしました。委員は、WKCのリソースに制約があることを考えると一層、WKCの成果は素晴らしいと称えました。高齢者の未充足の医療介護ニーズへの注目を強く支持し、とくに注目すべきはLTCで、多くの国々でまだ十分なLTC制度が確立されていないことを考えると、LTCにおける未充足ニーズに取り組むことはとりわけ重要になるだろうと語りました。タンチャロエンサティエン議長は、未充足ニーズに関するWKCのリサーチエビデンスを高く評価し、未充足ニーズをSDG 3.8.2のグローバル指標の1つに加えるための自身の論拠の支えになると語りました。WKCは今後リサーチコンソーシアムを設立することにより、未充足ニーズに関するグローバルな研究アジェンダの主導権を獲得する上で比較優位を強化することができる、議長は述べました。また、リサーチコンソーシアムが未充足ニーズに関する各国のデータの作成を支援することも重要になるだろうと述べました。アジェポン委員は、リサーチコンソーシアムはアフリカ地域のデータの不足を補う手助けをすべきであると付け加えました。

要点:

- ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の指標と測定に関しては、5件の研究が完了し、2件の研究プログラムが進行中である。研究結果は、WHOと世界銀行による2021年版「保健医療分野における経済的保護」および「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の追跡」に関する両グローバルモニタリングレポート、WKCのエビデンスサマリー、および7件の査読付き学術論文に貢献している。
- 高齢者の未充足ニーズの測定に関するデータと手法の改善に焦点を当てたグローバル・リサーチコンソーシアム設立の取り組みが前進している。
- 諮問委員会は、医療介護における未充足ニーズは研究が不十分な領域であり、UHCおよび継続的ケア（LTC）のグローバルモニタリングにとって大きな意義がある領域であることからその研究の重要性を強調した。
- 今後の研究には、未充足ニーズに関するデータ作成のため、特にアフリカ地域で、低・中所得国に対する支援を含めるべきである。



3.2 UHC—サービス提供、持続可能な資金調達、イノベーション

バーバー所長は、サービス提供、および持続可能な資金調達の研究の進捗状況について発表し、WKCのすべての職員の貢献に言及しました。**サービス提供**については、2017～18年に立ち上げた研究プログラムが完了し、BMC/SpringerのHealth Research Policy and Systems誌でWKCが編纂した特別号が発刊される予定で、そこでは**高齢化に対応した保険医療制度についてアジア太平洋地域の10カ国**においてWKCが実施した研究が発表されます。これらの研究成果は、2022年11月に開催される第37回日本国際保健医療学会学術大会の公式プログラムの中で一般にも公開される予定です。

神戸市における認知症患者の管理について神戸大学および神戸市と共同で行われてきた特別旗艦プロジェクトは、5年の実施期間後、完了しました。その研究成果は、関西圏においても国際的にも学術誌やその他の政策フォーラムで広く普及してきました。神戸認知症研究の共同プロジェクトの成功を受け、**神戸市との新しい共同研究事業**の研究公募が始まっています。この新たな研究は、医療や介護保険の利用や検診の受診などに関する個人データを連携させた**神戸市のヘルスケアデータの二次分析をもとにコロナウイルス感染症パンデミックの健康二次被害について調査**することが予定されています。この研究は、地元の優先保健課題に対応し、WKCのグローバルな研究アジェンダともよく合致すると考えられます。

本研究分野の重点は、高齢化を踏まえた持続可能な資金調達に移行しています。WHO欧州保健制度政策観測所およびWHO西太平洋地域事務局（WPRO）との連携は成功し、12カ国の事例研究とWHO西太平洋地域に関する2点の出版物が生まれました。これにより、**健康な高齢化が医療費支出および経済成長の動向にどのように影響を与えるか**理解が深まることが期待されます。この研究は「**高齢化による保健医療制度の財政的持続可能性ギャップ（PASH）シミュレーター**」の開発につながりました。これにより政策立案者は、さまざまな国において人口の年齢構成が変化することにより、今世紀末までに保健医療費収支がどのように変化するかを予想することができます。このシミュレーターはこれからもWHO西太平洋地域事務局（WPRO）で各国に適用されることが望まれます。

今後は、2件のWHOテクニカル・プロダクト、すなわちグローバルな旗艦プロダクトが研究活動の中心になります。**まず、継続的なケア（LTC）に関する資金調達のテクニカル・プロダクト**は、WHO保健制度ガバナンス・資金供給部門および高齢化担当部門と協力し行われているものです。LTCにおけるジェンダーの視点、公的な資金調達策、イノベーションに関する迅速なスコーピングレビュー、および関西圏から得られる知見について、5件の背景報告書の作成が進められています。本研究を補完するものとして、WHO欧州保健制度政策観測所およびWHO欧州地域事務局（EURO）と共同でLTC投資の論証研究を行っています。これらの研究成果は、2023年に更新される予定の「WHO Financing Brief for Long-Term Care（継続的なケアに関するWHO資金調達概要）」に盛り込まれる見込みです。

WKCが主導する2つ目のWHOテクニカル・プロダクトは、慢性疾患に対する質の高い保健医療サービスを強化するための購入手段に焦点を当て、OECD、WHO保健制度ガバナンス・資金供給部門と共同で行われています。本プロダクトは、慢性疾患に対する保健医療サービスの質を向上させるための購入手段と計画の役割に焦点を当てています。この研究からは、慢性期ケアの質を向上させるための購入手段と計画の活用について、十分なエビデンスを基に、低・中所得国向けの政策ガイダンスを作成する予定です。

本研究は、2018年以来OECDと成果を挙げている一連の共同研究の第3フェーズになります。なお、医療およびLTCにおける価格設定と価格規制に焦点を当てたそれ以前の共同研究から得られた結果については、2023年にWKCの企画・出資のもと、SAGE出版の学術誌Health Services Impactに組まれる特別号で発表される予定です。

2021～22年には、本研究分野から40点を超える書籍、論文、テクニカル文書が出版され、それに加え、PASHグローバルシミュレーターが進行中です。2点のジャーナル特別号と1点の書籍を作成中で

す。諮問委員会の2021年提言に対応し、COVID-19については、LTC研究、および神戸市との新しい研究計画にそれぞれ十分に組み入れられました。また、高齢者のエンパワメントに貢献するイノベーションに関する研究課題については、提言に従い研究計画から外されました。

WHO欧州地域（EUR）代表のアウアー委員がその後の討議をリードしました。委員は政策志向の研究重視を高く評価し、EURの研究機関との強力な連携に注目しました。多くの研究成果、特に認知症研究とPASHグローバルシミュレーターに注目したコメントも他の委員からありました。議長は、認知症研究から得られた知見を、特にリソースが制約された国や環境における政策提言に転換すること、また人々の機能的能力を高めるために実践的に応用することの重要性を強調しました。さらに、一次データの収集から、システムティックレビューやメタ分析などの二次データの活用へとWKCの研究手法を移行することも提案されました。

要点:

- サービス提供および持続可能な資金調達の研究分野では、4件の研究アジェンダが完了し、6件が進行中である。2021～22年には、40点を超える書籍、論文、テクニカル文書が出版され、それに加え、PASHグローバルシミュレーターと2点のジャーナル特別号を作成中である。
- 神戸認知症研究が成果を挙げて完了した後、神戸市と新たに準備している共同研究では、市民の受診行動や健康に関わる行動などに対するCOVID-19の影響に焦点を当てた、ヘルスケアデータの二次分析研究の公募を実施している。
- 2点のWHOテクニカル・プロダクト（グローバルな旗艦プロダクト）を作成中である。第1のプロダクトは継続的なケア（LTC）に関する資金調達に焦点を当て、低・中所得国においてLTC資金調達の有効性に関するエビデンスを見出すべく、6件のグローバルな実証研究が進行中である。第2のWHOテクニカル・プロダクトは、低・中所得国における質の高い慢性期ケアのための購入手段に焦点を当てている。
- 諮問委員会のメンバーは、特に認知症プロジェクトにおける研究と政策とのつながり、および研究全般における二次データの活用の重要性を強調した。



3.3 災害・健康危機管理 (Health EDRM)

WKCの茅野龍馬医官が、災害・健康危機管理 (Health EDRM) に関する研究プロジェクトの進捗状況の概要を、4つの優先研究課題それぞれについて述べました。まず第一研究課題である「本研究領域全体の情報ニーズや知見の不足に対処し、研究事業の標準化や倫理課題に取り組む」については、「災害・健康危機管理の研究手法に関するWHOガイダンス」の策定 (2021年) および改定 (2022年) とともに、学習教材 (スライドショー、ビデオ講義など) の作成、および日本語への翻訳を含むグローバル/地元での普及活動が、主な実績として強調されました。加えて、「災害・健康危機管理に関するWHOグローバルリサーチネットワーク」 (Health EDRM RN) の支援を受け、2件のプロジェクト、災害・健康危機管理に関するWHO研究アジェンダの策定、および災害・健康危機管理に関するWHOナレッジハブの構築が進行中です。

茅野医官は、完了した3件の研究プロジェクトについても主要な成果とともに、第2〜4の優先研究課題 (保健医療データ収集と管理、被災者の包括的ニーズへの対応、災害弱者対策) における進行中の3件の研究プロジェクトの期待される成果を紹介しました。まず、保健医療データに関する研究として「危機・災害等の発生前・発生時・発生後における保健医療データ管理に関するスコーピングレビューと事例研究」について、標準化された保健医療データを現場で収集するツールの有用性が実証されたこと、そうしたツールとして、WHO緊急医療チーム (EMT) の「日報すべき最小のデータセット (MDS)」および「日本版災害時診療概況報告システム」 (J-SPEED) が実際の災害現場で使用される中で、対応する管理者にリアルタイムで被災者の健康問題について情報を提供し、それによりデータに基づいた効果的なリソースの配分が可能になったことが紹介されました。次に、被災者の包括的ニーズへの対応に関する研究として、「災害・健康危機後のメンタルヘルスの長期的予後の決定要因に関するシステムティックレビュー」について、災害の種類にかかわらず、被災者におけるメンタルヘルスの問題の高い有病率と症状の長期化が明らかになり、各国やコミュニティが長期にわたり被災者を観察・追跡する必要性が裏付けられたことが紹介されました。また、同領域の研究である「災害・健康危機管理における保健医療人材開発戦略に関する文献レビュー、事例研究、専門家協議」について、この研究によって災害・危機管理における保健医療人材の教育、トレーニング、配置、および現場での活動を成功させるための一連のキーポイントが特定され、各国やコミュニティの政策・プログラムに示唆を与えることが強調されました。最後に、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行を踏まえた災害・健康危機管理に関する研究では、a) コミュニティの強靱性: 「より良い復興 (build-back-better)」のため、持続可能な戦略を達成する優先的アクションの構築、b) 全社会的アプローチ: 多くの国の初期対応の事例研究から得られた教訓の概要、およびc) メンタルヘルス: メンタルヘルスの問題を予防するため、スマートフォンを用いた認知行動療法 (CBT) の長期的効果の特定、の3つのテーマにおける進行中の研究が紹介されました。

WKCは2021年の諮問委員会会合の肯定的な評価に応え、引き続き現在の勢いを保つよう努めて、災害・健康危機管理に関するWHOグローバルリサーチネットワーク (Health EDRM RN) を活用したグローバルな連携活動や取り組みを推進しました。COVID-19を研究に統合するという第1の提言については、COVID-19を踏まえた健康危機管理の対応に関する3件の研究プロジェクトの開始により取り組まれています。第2および第3の提言では、デジタルヘルスおよび実装に関する研究が強調されました。これらの提言については、複数の研究プロジェクト、例えば保健医療データの研究におけるEMTのMDS/J-SPEEDの適用や、COVIDとメンタルヘルスの研究におけるおよびスマートフォンを用いたメンタルヘルス介入ツールの評価等を通じて取り組まれています。第4の提言では、研究成果やその意義を広く発信することが求められましたが、これについては、各プロジェクトに関する簡潔な研究概要の作成、「Health EDRMのための研究手法に関するWHOガイダンス」の学習教材の作成、およびHealth EDRMに関するWHOナレッジハブを構築するための進行中の取り組みを通じて対応しています。

2人の委員がその後の討議をリードしました。日下委員は日本の厚生労働省を代表し、WKCが1995年の阪神淡路大震災後に設立された歴史的な背景、および日本の災害に関する知識と経験、災害科学を取り上げ、根拠と利点に留意したうえで、災害対応における保健医療制度の強靱性に貢献する要因

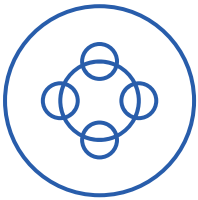
を研究するよう提案しました。坂下玲子委員は地元地域を代表し、諮問委員会のデジタルヘルスに関する2021年の提言への対応を含め、WKCの研究活動の進展と実績を称えとともに、地元の啓蒙、およびグローバルな研究と地元の研究との連携推進に対するWKCの貢献を高く評価しました。坂下委員は、保健医療人材の開発に関する実装研究をさらに進めるよう提案し、災害・健康危機管理における地元の地方自治体と現場の保健医療専門家とのより良い連携の重要性を強調しました。日下委員と坂下委員からはともに、「災害・健康危機管理の研究手法に関するWHOガイダンス」の普及に関して、災害における医学と公衆衛生の分野の密接な協力についての現在の取り組みを踏まえ、さまざまな研究セクターのネットワークへのアプローチ、および国連や国際機関のネットワークの活用により、災害医療以外の領域にも範囲を拡大して普及するよう提案がありました。坂下委員はまた、ガイダンスの普及の進展を示すことのできる指標として、研究者が今後発表される学術論文の中でガイダンスを引用する件数を拡大するよう提案しました。タンチャロエンサティエン議長は、WKCの過去の成功事例と進捗状況に基づき実装と適用を拡大する機会の重要性を強調し、WHOの地域や各国とのより緊密な連携をするよう提案しました（例えば、ガイダンスを用いた研究能力構築に関する共同ワークショップ、多国籍チームで行うEMT MDS/J-SPEEDを用いた最近の災害の迅速評価など）。

要点:

- 災害・健康危機管理 (Health EDRM) に関しては、2021～22年に3件の研究プロジェクトが完了し、7件のプロジェクトが進行中である。13点の学術誌の論文、および「災害・健康危機管理の研究手法に関するWHOガイダンス」が完成した。
- WHOガイダンスを普及させるグローバルな取り組みは順調に進んでおり、グローバルおよび地元の研究団体、またすべてのWHO地域事務局の支援を得て、学習教材の作成や日本語への翻訳などが行われている。
- 優先して新たに取り組むよう強調されているものには、実装研究、共同の研究能力構築、およびナレッジの普及により地域・各国のニーズに取り組むこと、ならびにWKCの研究成果物および研究成果の普及・適用を拡大するため地域ネットワークとステークホルダーとの関係を強化することが含まれる。
- 諮問委員会のメンバーは、保健医療制度の強靱性に関する研究、および保健医療人材の開発に関する実装研究を進めること、加えて他の災害科学分野の専門家・ネットワークへのアプローチおよび関与により、Health EDRM研究の認知度を高めることを提案した。研究および実装を拡大するため、地域・各国との連携を強めることが推奨された。

4

地元との連携強化：地域社会への貢献



WKCのプログラムオフィサー（総務）であるロイク・ギャルソン氏が、WKCの地元との連携計画における3つの目標について成果と今後の計画を発表しました。第1の目標は、UHCとSDGsへのコミットメントに基づく目標を共に達成することを目指し、各国から得た教訓の共有や、国を越えた協力を推進します。これについて、WKCは引き続き、関西を拠点とする11研究機関と連携して国内外で共通する健康に関する課題の研究に取り組んでいます。またWKCは、国際的専門家や関西に拠点を置く専門家で構成された「災害・健康危機管理に関するWHOグローバルリサーチネットワーク（Health EDRM RN）」の事務局でもあり、毎年会合を開いて研究ニーズや最新の進捗状況について情報を交換し、共有しています。

第2の目標は、地域社会に対するWKCの研究活動の広報です。WKCは2021～22年に7回のWKCフォーラムを開催し、またウェブ上およびソーシャルメディアでのプレゼンスを拡大しました。前回の諮問委員会の開催以降、WKCのTwitterアカウントは9,400フォロワーに近づき、ウェブサイトの訪問者は210,000ページビューを超えました。WKCのYouTubeチャンネルもフォロワーが増加しており（現在までで約300）、チャンネル上ではWHOのCOVID-19に関する「Science in 5」（5分でわかるサイエンス）のビデオを日本語に翻訳したものや、Health EDRM RNが主催したウェビナーの録画などを公開しました。

第3の目標は、兵庫県や神戸市において健康の認識向上と啓蒙に努め、コミュニティに貢献することです。この2年間でWKCの職員は関西圏や地元の学生への講演を70回以上開催し、地域の各種専門委員会に15回参加してWHOの最新の推奨事項について情報提供し、公衆衛生の課題への政策対応に貢献しました。また、健康課題に関する14の地元イベントにも協力しました。WKCは引き続き、COVID-19に関するWHOのテクニカルガイダンスや一般情報について230件以上日本語に翻訳しています。また、定期的な会合などにより神戸グループとの連携の強化を進めました。

片山安孝兵庫県副知事は神戸グループを代表し、WHOと神戸グループとの覚書の重要性を強調し、2015年の繰越財源800万米ドルを活用した地元との連携および研究の合意済みの優先課題を強調しました。これには、神戸市との連携の継続、若い世代の能力構築と啓蒙、およびWKCの地元でのプレゼンス向上のための取り組みの拡大を含めるよう、期待されています。副知事は、地元の委員会や会合へのWKCの貢献、およびCOVID-19に対する「全社会的アプローチ」に関連して実施中のHealth EDRM研究に感謝の意を表明しました。また、神戸グループとの相互理解のための緊密なコミュニケーションの重要性を強調しました。2023年には第4期覚書に関する協議が始まることに触れ、WKCが地元の市民に自らのプレゼンスと価値を発揮できるよう、さらなる努力を期待すると述べました。坂下玲子委員は、地元の学生にグローバルな健康課題を学ぶ機会を提供する重要性を強調しました。日下委員は同様に、WKCの認知度向上のために、学生や若い世代を対象としたWKCの活動について言及しました。

クウォン委員は、WKCが小規模な組織であること、また研究機関としての使命と成功の尺度を考慮に入れる必要があり、期待値は妥当なものであるべきだと述べました。議長のタンチャロエンサティエン委員もクウォン委員に同意し、限られた予算と人員を前提に何が期待できるかについて、神戸グループと理解を深める必要があると示唆しました。アジェポン委員は学生の能力構築の重要性に注目し、WKCが地元の研究所と連携すること、またWKCがいかに限られた人員で地元との連携およびパートナーとの協力が可能になるかについて、神戸グループを代表するWKC協力委員会（JCC）との話し合いの場を持つことを提案しました。

要点:

- 2021～22年の地元連携の主な成果：WKCフォーラム7回、関西を拠点とする11研究機関との継続的連携、WKCウェブページの210,000以上のページビューおよび1日平均訪問者数1,000、公式ツイッターアカウント (@WHOKobe) のフォロワー数9,300以上およびYouTubeフォロワー数300、公式ホームページのニュース記事掲載数日本語73件および英語27件、講演およびウェビナー70回以上、COVID-19に関するWHOテクニカルガイダンスおよびインフォグラフィック等の新規・更新情報の日本語翻訳230件以上の普及。
- WKCは今後も、関西圏および国外の研究パートナーとの研究を継続し、中核的な研究拠点としての認知および評価に向け、研究成果の普及、地元との連携活動の強化および拡大を図る。
- 諮問委員会は、神戸グループとの調整を行う担当者の役割の強化や若者、研究者、地方自治体を巻き込むWKCフォーラムやWHOグローバルヘルス・サマースクールなどの地元との連携活動の強化を推奨した。

5

提言

議長のタンチャロエンサティエン委員と書記のアジェポン委員は結論と提言を発表しました。議長と書記は、WKCに限られた人員と予算にもかかわらず、諮問委員会の2021年提言を十分考慮し、研究、出版、および地元との連携において素晴らしい実績を挙げていることに言及しました。特に新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミックについては、ポリシーブリーフやソーシャルメディアのプラットフォームなどさまざまな手段を活用した情報発信が行われたこと、およびWKC初の隔年事業成果報告書「2020～21年事業成果ハイライト」が発表されるなど、コミュニケーション活動に非常に大きな成果があったことを強調しました。

諮問委員会による提言は以下の通りです。

1. 兵庫・神戸、日本、および海外の政策立案者や他のステークホルダーとの協議を通じて、2026～2036年の研究戦略の方向性について優先すべき課題の特定および確定を行う。
2. UHCと高齢化の文脈において、a) 医療従事者の大量離職、b) 認知症や高齢者の複雑なニーズに対応できる、多職種連携にもとづく機能的なプライマリヘルスケア (PHC) モデル、c) 食料安全保障をはじめとするワンヘルス (One Health) の問題など、新たな研究課題の追加を検討する。
3. WKCはWHO本部直轄のグローバルな性質を持つ研究機関であるため、その研究はWHOの第13次総合事業計画 (GPW13-2023年までに数十億の人々の健康を改善することを目標とする) および持続可能な開発目標 (SDGs) に沿う必要がある。また、WHO本部と地元兵庫神戸両者の期待に応えるため、「地域社会にも世界にも有意義な」健康課題を特定する必要がある。
4. WKCが既に取り組んでいる、a) 高齢化、b) UHC、c) 災害・健康危機管理の三つの研究分野は、WKC固有のニッチであり、それぞれ世界および地元で関心の高い課題であり、今後もWKCの研究テーマとして継続する。
5. WKCの長年蓄積してきた知見に基づき、また低・中所得国における急速な高齢化と認知症罹患率の増加という背景の下^{3,4}、WKCは神戸認知症研究から得られた知見である、認知症の発見、予防、管理に資するツールを国内外の広い環境への適用を通じて、研究ポートフォリオを多様化し、政策や実践に役立てる高い可能性を持つ。
6. 「SDG指標に関する機関間専門家グループ (IAEG-SDGs)⁵」がSDGs 指標 3.8.3 の第1次指標として「未充足の健康ニーズの発生率」を含めることを決定した場合、未充足の健康ニーズに関する研究は、主要な研究分野になりうる。既存の全国規模の世帯調査などに未充足のニーズのモジュール

ルを挿入できるように、調査項目の標準化に努めたり、高齢者の未充足の介護・社会的ケアニーズについても分析や発生率の算出を行う。

7. WKCはグローバルな研究コンソーシアムの設立を通じ、未充足の保健医療ニーズとその決定要因および解決策としてのサービス提供や経済的リスク保護の強化に関する研究課題を推進する上で優位を獲得する。
8. 災害・健康危機管理 (Health EDRM) 分野でWKCが管理するポータルサイトは非常に重要な情報源であり、WKCの優れた成果である。政府間交渉機関 (INB)⁶を通じたWHOパンデミックアコードに向けた国際交渉の文脈を踏まえ、WKCの災害・健康危機管理分野の研究を世界共通の課題である公衆衛生上の緊急事態に対象を拡大することを検討してもよいかもしれない。高齢のCOVID-19感染者における長期的な影響、例えば罹患後症状や生活の質 (QOL)、死亡などへの影響に関する研究などが考えられる。
9. 兵庫・神戸、関西地域、日本国外の研究パートナーと引き続き協力し、WKCの研究を通じて得られた様々な「エビデンス」を最大限活用するため、実装研究を支援し、研究成果の政策や実践への取り込みを促進するとともに、その影響を評価する。
10. 地元との連携においては、WKCの調整担当官の機能を強化し、神戸グループとの連絡調整を行い、相互理解を深めるとともにWKCフォーラムやWHOサマースクールなど、若者・研究者・地方自治体関係者を巻き込んだイベントを通じて引き続き地元との連携を強化する。
11. Health Systems Global 2024 (HSR 2024-保健医療制度研究に関する世界最大の学会組織) が隔年に行う国際シンポジウムを2024年には長崎大学と国際協力機構 (JICA) が共同開催することを最大限に活用し、WKCの研究成果を広めるとともに、WKCのグローバルな認知度を高め、またWKCの今後 (2026~2036) の戦略的方向性に関して世界のステークホルダーからインプットを得る。

³ Sudharsanan N、Bloom DE「低・中所得国における高齢化の人口統計研究：年代別対機能別の視点 (The Demography of Aging in Low- and Middle-Income Countries:Chronological versus Functional Perspectives)」所収：National Academies of Sciences, Engineering, and Medicine; Division of Behavioral and Social Sciences and Education; Committee on Population (編者：Majmundar MK、Hayward MD)。「高齢化人口統計研究の将来の方向性：ワークショップ議事録 (Future Directions for the Demography of Aging:Proceedings of a Workshop)」Washington (DC):National Academies Press (US); 2018 Jun 26. 11、<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/books/NBK513069/>を参照。

⁴ Ferri CP, Jacob KS「低・中所得国における認知症：各国の現実に合わせて解決策 (Dementia in low-income and middle-income countries:Different realities mandate tailored solutions)」PLoS Med.2017 Mar 28;14(3):e1002271. doi:10.1371/journal.pmed.1002271. PMID:28350797; PMCID:PMC5370095。

⁵ 国連SDGグローバル指標に関する機関間専門家グループ (Inter-agency and Expert Group on SDG Indicators, United Nations)、<https://unstats.un.org/sdgs/iaeg-sdgs>を参照。

⁶ WHO政府間交渉機関 (Intergovernmental Negotiating Body, the World Health Organization)、<https://inb.who.int/>を参照。

6

結論

タンチャロエンサティエン議長は、WKCがその研究アジェンダにおいて称賛すべき成果を挙げたと述べました。また、諮問委員会の各メンバーに締めくくりの発言を求めました。神戸グループは、本日の討議が有益であったと述べ、今後もWKCとの協力を継続することを強調しました。日下委員は、提言がよくまとめられていると述べたのに加え、WKCの研究成果のインパクト評価にも触れ、研究にもとづいたエビデンスの政策転換を考慮することを提案し、またそうすることで研究成果に対する認知度を向上させることもできると示唆しました。坂下委員は、限られた資金と人員にもかかわらず、WKCが重要な成果を挙げたことを強調しました。また、グローバルな知見が地域社会にもたらされたことが重要であると述べました。

タンチャロエンサティエン議長は、WKCのニッチは地元と世界の健康課題の優先事項を結び付けることであると述べました。また、神戸グループに対して、地域社会のためにも、またグローバルヘルスへの貢献としてもWKCへの支援の継続を求め、30年にわたる神戸グループの多大な貢献に謝意を示したのに加え、諮問委員会はこうした取り組みを支援するために存在することも強調しました。バーバー所長は、諮問委員会メンバーの熱心な討議と有益な提言に深い感謝を表しました。また、2023年の諮問委員会の会合は神戸で開催する予定であると述べました。

付属資料

付属資料 1: プログラム



World Health
Organization

2022/11/08

WHO CENTRE FOR HEALTH DEVELOPMENT

第 26 回 WHO 神戸センター諮問委員会
(2022 年 11 月 10 日-11 日/オンライン開催)

使用言語: 日・英 同時通訳付

プログラム

2022 年 11 月 10 日 (会議 1 日目)

16:55-17:00	事務連絡	WKC ロイク・ギャルソン プログラム・オフィサー
17:00-17:15 (神戸時間。 各都市の時間 は欄外を参 照)	開会 歓迎のことば ご挨拶 -神戸グループ代表(ビデオメッセージ) -日本政府代表 -WHO 代表(ビデオメッセージ) 法令手続き ・諮問委員会議長による開会挨拶 ・報告者の任命	議題 1 WKC 所長 サラ・レイーズ・バーバー 兵庫県知事 齋藤 元彦 厚生労働省大臣官房 国際保健福祉交渉官 日下 英司 事務局長補 山本 尚子 議題 2 議長 ビロージ・タンチャロエンサティエン委員
17:15-17:45	戦略的成果と課題 -要約発表 (10 分間) -第一発言者からのコメントおよび討議 (20 分間)	議題 3 発表者: WKC サラ・レイーズ・バーバー 第一発言者: アイリーン・アジェポン委員 デービッド・リンドマン委員 (事前にコメントを書面にて入手)
17:45-18:15	研究成果発表: UHC—人口高齢化を踏まえた指標と測定 -要約発表 (5 分間) -第一発言者からのコメント および討議 (25 分間)	議題 4-1 発表者: WKC ローゼンバーグ恵美技官 第一発言者: スーンマン・クウォン委員
18:15-18:25	休憩	

WHO CENTRE FOR HEALTH DEVELOPMENT

18:25-18:55	研究成果発表： UHCサービス提供、持続可能な資金調達、イノベーション -要約発表（5分間） -第一発言者からのコメント および討議（25分間）	議題 4-2 発表者： WKC サラ・ルイーズ・バーバー 第一発言者： クレメンス・アウアー委員 マゲッド・アルシャービニ委員
18:55-19:25	研究成果発表： 災害と健康危機管理 -要約発表（5分間） -第一発言者からのコメント および討議（25分間）	議題 4-3 発表者： WKC 茅野龍馬医官 第一発言者： 日下英司委員 坂下玲子委員
19:25-19:30	会議一日目総括	議長
19:30	会議一日目終了	

2022 年 11 月 11 日（会議 2 日目）

17:00-17:30	地元との連携強化成果発表： 地域社会への貢献 -要約発表（5分間） -第一発言者からのコメント および討議（25分間）	議題 5 発表者： WKC ロイク・ギャルソン 第一発言者： 片山安孝委員
17:30-18:30	提言準備のための非公開討議	諮問委員及び WKC 報告者
18:30-18:40	休憩	
18:40-19:10	諮問委員からの提言	議題 6 諮問委員
19:10-19:20	結論およびその他の事項	議題 7 議長
19:20	閉会	議長

各都市の会議時間

都市	アカラ (ガーナ)	ベラジオ (イタリア)	神戸・東京	クウェート	バート・ホーフガ シュタイン (オーストリア)	ソウル (韓国)
時間	8:00-10:30	15:00-17:30	17:00-19:30	11:00-13:30	9:00-11:30	17:00-19:30

付属資料 2: 出席者リスト



World Health
Organization

WHO CENTRE FOR HEALTH DEVELOPMENT (WHO KOBE CENTRE – WKC)

第 26 回 WHO 神戸センター諮問委員会 (2022 年 11 月 10-11 日 オンライン開催)

出席者リスト

諮問委員

アイリーン・アクア・アジェボン	ドドワ医療研究センター 公衆衛生コンサルタント (ガーナ)
マゲッド・アルシャービニ	ダイレクト・エイド・インターナショナル 高等教育シニアアドバイザー (クウェート)
クレメンス・オウアー	ガスタイン欧州保健フォーラム 会長 (オーストリア)
日下 英司	厚生労働省大臣官房 国際保健福祉交渉官 (日本)
片山 安孝	兵庫県副知事 (日本)
スーンマン・クウォン	ソウル大学公衆衛生大学院医療政策管理学部 教授 (韓国)
デービッド・リンドマン ¹	カリフォルニア大学バークレー校 社会の関心にかかわる情報技術研究センター 保健担当部長 (アメリカ合衆国)
坂下 玲子	兵庫県立大学副学長 (日本)
ビロージ・タンチャロエンサティエン	国際保健政策計画財団 シニアアドバイザー (タイ王国)

来賓

齋藤 元彦	兵庫県知事
-------	-------

神戸グループ

山下 輝夫	兵庫県 保健医療部長
波多野 武志	兵庫県 保健医療部 医務課長/WHO 神戸センター協力委員会事務局長

1. 欠席

名久井 康宏	兵庫県 保健医療部 医務課 企画調整班長
長田 卓哉	兵庫県 保健医療部 医務課 企画調整班 主査
西田 七海	WHO 神戸センター協力委員会事務局
藤原 政幸 ¹	神戸市 医療・新産業本部長
森 浩三	神戸市 医療・新産業本部 医療産業都市部長
池澤 和之	神戸市 医療・新産業本部・医療産業都市部 調査課 担当課長
梅木 章成	神戸市 医療・新産業本部・医療産業都市部 調査課 担当係長
宮本 航帆	神戸市 医療・新産業本部・医療産業都市部 調査課
後藤 眞一	神戸商工会議所 理事・産業部長
平岡 靖敏 ¹	神戸商工会議所 産業部 参事役
西田 由実 ¹	神戸商工会議所 産業部 産業・国際チーム 課長
谷口 彩音 ¹	神戸商工会議所 産業部 産業・国際チーム
楠山 泰司 ¹	株式会社神戸製鋼所 理事 総務・CSR 部 担当役員補佐
神尾 真裕美	株式会社神戸製鋼所 総務・CSR 部 次長 総務グループ長
西澤 公明	株式会社神戸製鋼所 総務・CSR 部 総務グループ 係長

WHO 神戸センター

サラ・ルイーズ・バーバー	所長
ロイク・ギャルソン	プログラムオフィサー（総務）
茅野 龍馬	医官（災害・健康危機管理、メンタルヘルス、認知症、非感染症疾患）
ローゼンバーグ・恵美	技官（指標と測定、健康格差、高齢化）
サマンサ・チバーズ	コンサルタント（広報）
趙 潤華（ユナ・チョー）	コンサルタント（広報）

（敬称略）

1. 欠席

付属資料 3: 研究成果

人口高齢化を踏まえた ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの指標と測定

背景

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) は2030年の達成を目指す国連持続可能な開発目標 (SDGs) の一目標です。UHCに取り組む各国は、全ての人が必要とする質の高い医療サービスの提供を目指すとともに、こうしたサービスへのアクセスが過度の経済的負担につながらないようにしなければなりません。現在、世界保健機関 (WHO) と世界銀行が共同開発したフレームワークがUHCの測定とグローバル・モニタリングの基準となっています。こうしたグローバルなUHCモニタリングの枠組みはたしかに重要な参照基準ではあるものの、具体的指標は各国の状況に基づき調整され、変化する環境に合わせていくべきです。人口高齢化に伴う保健ニーズの変化により、各国は自国の保健システムの課題に合わせてUHCの測定とモニタリング・システムを調整しています。このため、WHO神戸センター (WKC) はUHCモニタリングが研究や実践の場において現在どのように行われているか、また人口高齢化から生じるニーズに各国の保健システムがどう対応しているかを評価する方法を研究しています。

WKCのねらいは、UHCの測定とモニタリングの現状、および、各国の保健システムがどの程度、高齢者の健康権利に対応しているかを理解することです。高齢者の健康権利には、保健サービスのカバレッジ、公的制度による経済的保護、公平性、ケアの質も含まれます。また、高齢化の進行という状況の中でUHCを推進するため、WKCは測定・モニタリング用ツールの開発や改善に向けた研究、エビデンスから実践へのナレッジ・トランスレーション (知見の活用) を促進する研究も支援しています。

主要研究分野 (2021～2025年)

1. 高齢者向けの保健サービス、経済的保護、ケアの質と公平性の測定に関する現行の研究状況の分析
2. 人口高齢化の状況において各国がUHCモニタリングを実施するための指標と評価ツールの開発支援

進捗報告 (2021～2022年)

2021～2022年に終了した研究の成果

保健医療が原因となる経済的困窮に関する各国の家計調査データの年齢構成別解析 (WHO本部、WHO地域事務局、コンサルタント、2020～21年) は、WHOジュネーブ本部保健制度ガバナンス・財政部門経済評価・分析ユニットとの共同事業の一環として取り組んだ、高齢者のいる世帯の経済的保護の分析研究です。本研究は、経済的保護に関するSDG指標3.8.2の評価方法に沿って実施された初めての年齢構成別評価です。92カ国のデータ解析に基づく研究によれば、60歳以上の高齢者が少なくとも1人いる世帯では、破滅的支出 (家計の総消費または総収入の10%を超える医療費を定義) の発生率が最も高いことがわかりました。これらの研究結果は、WHOと世界銀行が2021年に発表したGlobal Monitoring Report on Financial Protection in Health (非公式訳: 保健医療分野における経済的保護に関するグローバル・モニタリング・レポート) に発表され、WKCではポリシー・ブリーフを作成中です。本事業は、世界の人口の高齢化を踏まえWKCで現在進めている、経済的保護の評価に関する研究プログラムの基盤となっています。ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) のグローバル・モニタリングに貢献するとともに、日本全体と関西地域のヘルスケアにおける高齢者の経済的保護に関する分析を行うための新たな研究に着手しています (進行中の研究に関しては以降のセクションを参照)。

ベトナムの高齢者に対する経済的保護に関する評価 (ベトナム保健戦略政策研究所、2019～21年)

では、ベトナム北部、中部、南部を代表する3つの省において多段クラスター抽出法による調査を行い、60歳以上の1,536人から医療費についてのデータを収集しました。この研究では、ほぼすべての調査対象者が健康保険加入者であるにもかかわらず、健康障害の発症時には3分の1以上が受療せず、ひいては、セルフメディケーションのための自己負担（OOP）支出をとまなうこともしばしばであることがわかりました。受療時には、ほとんどの患者が、自己負担分、保険適用外の医薬品、非医療費（旅費、食費など）に関連するOOPを支払っていました。高齢者のケアのためにOOP支出を必要とした世帯のうち半数以上は、費用を賄うために、資金を借り入れたり、融資を受けたり、財産を売却するなどしていました。加えて、政策立案者、医療管理者、医療提供者、高齢者を対象とした20件の綿密な聞き取り調査および28件のフォーカスグループディスカッションが行われ、既存の経済的保護政策に関する限界がいくつか特定されました。具体的には、社会扶助給付の水準や社会的ケアサービスの補償範囲が不十分であること、また、特に自営業者や低所得高齢者に社会健康保険適用範囲のギャップがあげられます。こうした研究結果は、「保健医療分野における経済的保護に関するグローバル・モニタリング・レポート2021」に取り上げられました。また、急速な高齢化に対する医療システムの対応をテーマとしてWKCが発表する学術誌特別号（BioMed Central/BMC Health Research Policy and Systemsジャーナル・サプリメント）にも掲載が決定しています。さらにWHO西太平洋地域における高齢化戦略の策定にも寄与しました。

高齢者におけるヘルスケアニーズとサービス・カバレッジの公平性：スコーピング・レビュー（シェフィールド大学、リバプール大学、大阪大学、2020～21年）は、高齢者におけるサービス・カバレッジの公平性に関する概念研究です。グローバルなスコーピングレビューに日本の文献レビューを補足したこの研究から、高齢者に対する保健医療サービス・カバレッジの公平性に関するモニタリングでは、多疾患罹患、複雑なケアの必要性、意思決定能力、そしてサービスの利用しやすさに注目する必要があることがわかりました。主な研究結果はWKCのエビデンス・サマリーで紹介され、研究論文の全文はIntegrated Healthcare Journalに掲載されました。本研究は、WKCで現在進めている、医療・社会的ケアに対する未充足のニーズの評価に関する研究プログラムの土台となりました。この研究結果から、高齢者の保健医療サービスのカバレッジの公平性を評価する研究において、今後、世界的に活用することのできる理論的フレームワークが提供されました。大阪大学が実施した日本の文献レビューでは、特に日本に関連する保健医療の公平性に関する課題を特定する成果をあげました。このレビューの結果は別途、学術誌での発表を準備中です。

システムティックレビューとメタ分析：保健医療サービスへのアクセスを妨げる経済的障壁とその結果としての未充足のヘルスケアニーズ（東京大学、一橋大学、2020～21年）は、WHO本部保健制度ガバナンス・資金供給部門経済評価・分析（EEA）ユニットによって、受診控え（受診回避や受診放棄を含む）を原因としたヘルスケアの未充足のニーズに対処する共同研究シリーズの活動の一環として行われました。メタ分析には、56カ国の約5800万人を対象とした114件の研究論文が含まれました。その結果、65歳以上の高齢者におけるヘルスケアの受診控えの割合は31～64歳の比較的若い成人よりも高く、その主な理由は医療費の高さでした。この研究ではまた、未充足のニーズの測定手法は研究により大きく異なっていることもわかりました。こうした研究結果は、「保健医療分野における経済的保護に関するグローバル・モニタリング・レポート2021」に掲載され、別途、査読付き論文がHealth Economics Reviewに受理されました。本研究は、WKCが現在進めている、医療・社会的ケアに対する経済的保護の評価および未充足のニーズの測定に関する研究プログラムに貢献しました。

高齢者の医療・社会的ケアにおける未充足のニーズを定量化するための多国間にわたる横断研究および縦断研究（インターナショナル・ヘルス・トランジションズ、イタリア国立研究評議会神経科学研究所（CNR-IN）／縦断的保健・国家間統計モデリングに関するWHO研究協力センター、ヨーテボリ大学、2019～22年）本研究の目的は、2020～21年に完了した、概念研究、および受診控えを原因としたヘルスケアの未充足ニーズの発生率に関するシステムティックレビューとメタ分析を踏まえ、高齢者におけるヘルスケアおよび社会的ケアの未充足ニーズの発生率について、既存の調査から得られたデータセットの二次解析によって低・中所得国も含めた複数の国の推定値を算出することでした。2001年から2019年の間に83の低・中・高所得国を対象として実施された17件の保健医療調査、社会調査、経

済調査のデータが解析されました。自己申告によると、60歳以上の成人の未充足のヘルスケアニーズは、一部の国では2%未満の低レベルから、他の国々では50%を大幅に上回る高レベルまで、最新の推定値には開きがみられました。同様に、社会的ケアの未充足ニーズの推定値も、国により4%未満から40%超と幅のある結果となりました。UHCサービス・カバレッジ指標との相関分析によって導かれた、「保健医療サービス・カバレッジの値が高い国では高齢者のヘルスケアニーズにおける未充足の割合が一般的に低い」という研究結果は、WHOと世界銀行のTracking Universal Health Coverage: 2021 Global Monitoring Report（非公式訳：ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの追跡：2021年グローバル・モニタリング・レポート）で引用されました。査読付き学術誌論文の発表準備中です。

2021～23年に進行中の研究と期待される成果

WKCは2022年9月に、未充足のニーズ（アンメットニーズ）に関するデータの世界的な需要の増大を認識し、UHCのモニタリングおよび関連する方法論上の課題解決を目的として、高齢者の医療・社会的ケアに関するアンメットニーズの評価方法を促進するためのグローバル・リサーチコンソーシアム（オーストラリア国立大学、ニューサウスウェールズ大学、ヨーテボリ大学、パドヴァ大学、国際長寿センター（ILC）シンガポール、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン、2022～23年）の組織に関する新しいプロジェクトを開始しました。本研究は、「特に高齢者の医療ケア、および社会的ケアに関するアンメットニーズについて、世界的に比較可能なデータがいまだに不足している」というWKCのこれまでの研究結果に対応するものです。本プロジェクトの目的は、既存の知識を統合し、専門家との一連の協議を通して、この分野を促進するため、明確なリサーチアジェンダを備えたグローバル・リサーチコンソーシアムを設立することです。リサーチアジェンダへの取り組みにより、UHCや他の関連する国際開発目標の進捗評価に有用な新しいデータの生成が期待されています。

WKCは、経済的保護の評価に関する世界的な研究プログラムの一環として、またセンターが担う地域研究の観点から、日本の関西地域に焦点を当てた高齢者の経済的保護に関する研究を実施中です。関西には生活保護受給世帯の割合が日本で最も高い地域が複数存在し、その多くは高齢者が暮らす世帯であることが知られています。

関西地域に有意義な日本の高齢者にみる高額な医療支出がもたらす経済的困窮および未充足のケアニーズに関する家計調査分析（東京都健康長寿医療センター、慶応義塾大学、甲南大学、国立国際医療研究センター、大阪大学、2021～23年）が、一つ目の研究として2021年7月に始まりました。本研究の第1の目標は、経済的困窮と未充足のケアニーズに関する統計的推定を全国データを用いて行ない、関西の高齢者を日本の他の地域の高齢者や他の年齢層の人々と比較することです。本研究には、関西とさらに広く日本の高齢者に関連している経済的保護政策、経済的困窮、および未充足のケアニーズについて既存のエビデンスのレビューも含まれます。また、研究結果を地元に還元すべく、地元自治体関係者と政策提案などについて協議することも予定されています。暫定的な結果によると、65歳以上の高齢者が少なくとも1人いる世帯では、高齢者のいない世帯と比較し、家計総消費の10%を超える多額の自己負担医療費の支出がより一般的であることが示されました（2019年には10.8%対5.8%）。こうした研究結果は、「保健医療分野における経済的保護に関するグローバル・モニタリング・レポート2021」に取り上げられました。

二つ目の研究は、関西地域のヘルスケアにおける高齢者の経済的保護：経済的保護政策・方針の効果的な実施に対する障壁（京都大学、2021～22年）です。これは、関西地域で高齢者が保健医療サービスの支払いの際に抱える困難、および高齢患者と医療サービス提供者の両者が既存の財政支援の制度や政策を利用しようとするときに直面する障壁に関する探索的研究です。関西地域全6府県において、病院、地方自治体、地域の社会福祉機関や関連機関に勤める医療ソーシャルワーカーを対象に郵送調査を実施し、553人から回答を得ました。そのうち20人のサブセットを対象に綿密な聞き取り調査も行いました。暫定結果からは、医療サービス提供者にとっては各種関連サービスが縦割りであることや複雑な管理プロセスが課題であることがわかりました。一方で、高齢患者についても身体的、精神

的・認知的、および、社会的な複合課題が、既存の経済的保護プログラムの効果的な適用を阻害する要因として特定されました。研究成果は、2022年7月にオンライン開催されたWKC フォーラムで発表されました。このフォーラムには、関西地域を中心に自治体職員、医療・社会福祉従事者、研究者など150名余が参加しました。

出版物

グローバルレポート

- World Health Organization & International Bank for Reconstruction and Development. (2021). *Global monitoring report on financial protection in health 2021*. Geneva: World Health Organization. <https://apps.who.int/iris/handle/10665/350240>. License: CC BY-NC-SA 3.0 IGO
 - Section 1.2 “Who experiences financial hardship? A focus on age” (pp 17-21).
 - Box 5 “Health spending and unmet need among households with older persons in Japan” (p 21)
 - Box 8 “Forgone care and financial barriers to healthcare access: A systematic review and meta-analysis” (Box 8, p 27)
 - Box 11 “Composition of out-of-pocket health spending and financial coping strategies among households with older persons in Viet Nam” (p 49)
- World Health Organization & International Bank for Reconstruction and Development. (2021). *Tracking Universal Health Coverage: 2021 global monitoring report*. <https://www.who.int/publications/i/item/9789240040618>. Licence: CC BY-NC-SA 3.0 IGO
 - Section 1.3.2 “Inequalities in unmet health care needs” (p 13).

WKCエビデンス・サマリー

- [Key concepts for assessing equity in health care access among older people](#). WKC Evidence Summary. September 2021.

学術論文

1. Okamoto S, Komamura K. Towards universal health coverage in the context of population ageing: a narrative review on the implications from the long-term care system in Japan. *Arch Public Health*. 2022;80:210. <https://doi.org/10.1186/s13690-022-00970-8>
2. Carroll C, Sworn K, Booth A, Tsuchiya A, Maden M, Rosenberg M. Equity in healthcare access and service coverage for older people: a scoping review of the conceptual literature. *Integrated Healthcare Journal* 2022;4:e000092. doi: 10.1136/ihj-2021-000092
3. Shah SA, Safian N, Ahmad S, Nurumal SR, Mohammad Z, Mansor J, et al. Unmet health care needs among older Malaysians. *J Multidiscip Healthc*. 2021;14:2931–2940. doi: 10.2147/JMDH.S326209. eCollection 2021.
4. Jebeli SSH, Rezapour A, Rosenberg M, Lakeh MM. Measuring universal health coverage to ensure continuing care for older people: a scoping review with specific implications for the Iranian context. *East Mediterr Health J*. 2021. <https://doi.org/10.26719/emhj.21.040>
5. Shah SA, Safian N, Ahmad S, Wan Ibadullah WAH, Mohammad ZB, Nurumal SR, et al. Factors associated with happiness among Malaysian elderly. *Int J Environ Res Public Health* 2021;18:3831. <https://doi.org/10.3390/ijerph18073831>
6. Sasaki Y, Shobugawa Y, Nozaki I, Takagi D, Nagamine Y, Funato M, et al. Rural–urban differences in the factors affecting depressive symptoms among older adults of two regions in Myanmar. *Int J Environ Res Public Health* 2021;18:2818. <https://doi.org/10.3390/ijerph18062818>
7. Safian N, Shah SA, Mansor J, et al. Factors associated with the need for assistance

among the elderly in Malaysia. *Int J Environ Res Public Health*. 2021;18:730. doi: 10.3390/ijerph18020730

學術論文 (公開準備中)

1. Rosenberg M, Tomioka S, Barber SL. Introductory article to the supplement on research to inform health systems' responses to rapid population ageing. – *Health Research Policy and Systems*. Supplement issue.
2. Shah SA, Rosenberg M, Ahmad D, Ahmad S, Safian N, Shobugawa Y. Prevalence and determinants of unmet needs for hypertension care among the older population in Selangor: cross-sectional study – *Health Research Policy and Systems*. Supplement issue.
3. Nguyen GH, Nguyen VT, Hoang PT, Nguyen TT, Tran OTM. Household financial burden associated with health care for older people in Viet Nam: A cross-sectional survey. – *Health Research Policy and Systems*. Supplement issue.
4. Nozaki I, Shobugawa Y, Sasaki Y, Takagi D, Nagamine Y, Zin PE, Bo TZ, Nyunt TW, Oo MZ, Lwin KT, Win HH. Unmet needs for hypertension diagnosis among older adults in Myanmar: secondary analysis of a multistage sampling study. – *Health Research Policy and Systems*. Supplement issue.
5. Rahman MM, Rosenberg M, Flores G, Parsell N, Akter S, Alam MA, Rahman MM, Edejer T. A systematic review and meta-analysis of unmet needs for healthcare and long-term care among older people. - *Health Economics Review*.

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ： サービス提供、持続可能な資金調達、イノベーション

背景

人口の高齢化とともに、医療ニーズは変化をともないつつ増大しています。WHO神戸センター（WKC）は、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）実現に向けての進展を加速するため、高齢化の観点から保健制度のイノベーションに関する研究を行っています。また、本研究が、特に低・中所得国のための具体的な政策に結びつくことを目指しています。本研究プログラムは現在、継続的なケア（LTC）および慢性疾患に対する質の高いケアのための資金調達という2つの分野に重点を置いています。急速な人口高齢化にともない、あらゆる開発段階にある国々が、高齢者に対する適切な医療・社会的ケアの需要増大に対応するための、LTCの提供および資金調達のオプションに関する研究に取り組んでいます。高齢者は若年者とくらべて一般的に医療サービスを利用する機会が多いため、一人あたりの医療費が高額になります。このため、政策立案者の間では、高齢化が際限のない医療費の伸びにつながり、その支出がやがては維持できなくなるのではないかと懸念が広がっています。慢性疾患に対する質の高いケアのための保健医療サービスの購入や取り決めは、各国が医療費支出に対してより良い価値を得ようとするにつれ、その重要性が高まっていることから、WKCは、保健医療の購入オプションの設計に役立つ研究に着手しています。

主要研究分野

1. 柔軟性に富み、高齢化社会に継続的かつ革新的な形で適応し、多疾患にも対処しうるサービス提供モデルを評価する
2. 高齢化社会が財源確保や医療費の支出に与える影響を検討し、各国がどのように適応し、政策調整を行ってきたかを把握する

進捗報告（2021～2022年）

2021～2022年に終了した研究の成果

2018～2019年、WKCはASEAN諸国を対象に一連の研究プロジェクトを立ち上げ、サービス提供モデルを研究し、保健制度が高齢化にどのように適応しているかについて調査研究を実施しました。ほとんどの研究プロジェクトは2020年から2021年にかけて終了しており、その成果はプロジェクト概要や学術誌への発表、ワーキングペーパーの形式でまとめられ、他の国々に対する示唆ともなっています。これらの研究の多くは、BMC/Springerの学術誌Health Research Policy and Systemsに、高齢化に対応する保健医療制度をテーマとしたWKC編纂による特別号として、2022年に発表される予定です。

この学術誌特別号に掲載されるフィリピン・ベトナム・日本の研究では、フィリピンとベトナムの保健医療従事者を対象に開発、実施した職能に応じた専門職連携トレーニングの評価が行われ、高齢者が必要とする多職種連携にもとづく統合保健医療サービスを提供できる人材の育成に役立つこと、それが他の低・中所得国にも適応できる可能性が示されました（フィリピンとベトナムの高齢者に良質のサービスを提供するための専門職連携トレーニング、フィリピン大学マニラ校、東京医科歯科大学、フエ医科薬科大学、および兵庫県立大学、2018～22年）。この他、学術誌特別号では、以下の研究を取り上げます。カンボジアが既存のリソースの下で、急性期から慢性期のケアへとシステムの移行を実現するための、プライマリ・ケアの強化に関する研究成果（カンボジアにおける持続可能なプライマリ・ケアに関する研究、Duke-NUS医学大学院、カンボジアKHANA公衆衛生リサーチセンター、カンボジア保健省、2019～22年）、ラオス人民民主共和国の3県における調査をもとにしたラオス人民民主共和国における認知機能障害の有病率に関する評価（ラオス熱帯医学・公衆衛生研究所、2019～22年）、およびタイの高齢者のための地域包括型中間ケア（CIIC）サービスモデルを評価するランダム化比較対照試験（順天堂大学、チェンマイ・ラチャパット大学、東京有明医療大学、チュラロンコン大学、2019

～22年）。シンガポールにおける高リスク高齢者の強化型ケア共同体（ECOC）モデルの評価（Duke-NUS 医学大学院、シンガポール総合病院、2019～22年）に関する研究は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックの影響によりデータ収集の目標達成に支障をきたし、当初の事業計画どおり2022年初めに完了することができませんでした。そのため、研究チームは、健康危機の事態において、脆弱な高齢者に関する研究を行う際の倫理的・実践的な課題について、本研究から得られた見識を論文にまとめました。これら一連の研究論文を掲載した学術誌特別号は2022年10月頃に発表の予定で、日本と海外双方の読者を対象に2件のプロモーションイベントを計画中です。1件目は、2022年11月に第37回日本国際保健医療学会学術大会の公式プログラムとして、WKCフォーラムの形式で開催します。2件目は、2022年12月（暫定）にグローバルウェビナーの企画を予定しています。

慢性疾患を抱える高齢者の生活の質や保健サービスの利用を最大限に向上させるサービス提供モデルの構築（キングス・カレッジ・ロンドン、南カリフォルニア大学、神戸大学、京都大学、2019～21年）に関する研究も完了し、論文が発表されました。

2018～22年に進行中の研究と期待される成果

認知症の社会負担軽減に向けた神戸プロジェクト（神戸大学および神戸市、2017～22年）では、複数年にわたる研究プロジェクトを通して、認知症患者への介入に対する保健医療制度の対応状況についての調査研究を実施しました。本研究は実施期間4年を経て完了、2022年の取り組みは研究成果の発表に重点が置かれています。論文5本がまとめられ、学術誌に発表または投稿査読中です。このプロジェクトデザインは、日本、オーストリア、スイスの会議で発表され、さらには、地方自治体と地元の大学との協働による公衆衛生研究のユニークなモデルとして日本の地方自治体に共有されました（2019年横浜ワークショップ）。本研究の暫定成果は、2021年6月の第10回日本認知症予防学会学術集会で発表され、低・中所得国における本研究結果の適用の可能性が強調されました。「神戸市認知症の人にやさしいまちづくり条例」の制定にも貢献しました。神戸市は、認知症患者の社会負担軽減に関する取り組みで全国的に認知されています。神戸市とは正式な対話を重ね、研究結果を将来の政策やプログラムに活用するための議論を継続しています。

認知症に関する神戸プロジェクトの成功を受け、地域の公衆衛生の優先課題に対処するための新たな共同研究の開発を目指し、神戸市との協議が進行中です。これはWKCのグローバルな研究課題にも合致するイニシアチブです。委託研究として検討中の一案として、市の個人データ（保健医療の利用、継続的なケア〈LTC〉の受給資格と利用、公的扶助・福祉の受給、および健康アウトカム）の二次分析があります。2022年現在、匿名化されたデータベースが研究目的で公開されており、さまざまなテーマに関していくつかの調査研究が既に始まっています。地域と世界の両方に関連するものの、まだ検討されていないテーマの1つに、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックによる、高齢者の保健医療や介護サービスの利用および健康アウトカムに対する影響があげられます。その他のテーマについても、2022年末までに研究提案の公募を予定、また2023年初めには新たな研究を開始することを目指して検討中です。

持続可能な資金調達の分野では、数件の共同プロジェクトが継続中です。WHO欧州保健制度政策観測所とWHO西太平洋地域事務局（WPRO）のパートナーシップにより、人口高齢化が保健医療財政に及ぼす影響に関する研究（WHO欧州保健制度政策観測所およびWPRO、2018～22年）が進められています。WKCは、2020～21年にWPROおよび欧州保健制度政策観測所と共同で、健康な高齢化が医療支出および経済成長の動向にそれぞれどのように影響を及ぼすかを把握するため、6カ国（日本、モンゴル、韓国、ベトナム、オーストラリア、ニュージーランド）において2セットの事例研究を実施しました。シミュレーションの結果、労働年齢人口の健康状態の改善がGDPの成長につながる可能性が予測されています。こうした結果は、状況の異なる6カ国において実施されたシミュレーションごとに認められました。すなわち、事例研究の結果から、人々が健康に歳を重ねる機会が多く、健康な高齢化が経済に貢献する可能性が示されています。各事例研究につき1本、合計12本のポリシー・ブリーフが完成し、西

太平洋地域レベルでのレポートも発表されています。本研究から、「高齢化による保健医療制度の財政的持続可能性ギャップ（PASH）シミュレーター」が開発されました。これにより政策立案者は、国によってさまざまな人口構成の変化により、保健医療の支出と財源の双方が今世紀末までどのように推移するかを見ることができます。財源と支出の間に財政ギャップがある場合には、いくつかの政策オプションを選ぶことでどのような効果が見られるかもこのシミュレーションを使って検討することができます。人口高齢化が保健医療財政にどのように影響を及ぼすかは、高齢化社会の必然的な結果というよりは、政策の選択の結果であるというのが、本研究の総括的なメッセージです。現在、各国がWHO地域事務局と協力し、このシミュレーション・ツールを試験運用中です。

WHO欧州保健制度政策観測所およびWHO欧州地域事務局（EURO）とともに、継続的なケア制度への投資に関する検証（WHO欧州保健制度政策観測所およびEURO、2021～23年）について新たな共同研究を開始しました。本研究の目標は、継続的なケア（LTC）の構成要素および政策のオプションをとりまとめ、書籍に編集して体系的に提示することにあります。これにより、あらゆる所得レベルの国々の経済・社会全体にとって、質の高いLTCへ投資することの利点を示します。本研究は、すべての所得レベルの国々が、人口高齢化にともない、保健医療サービスの提供形態を高齢者のニーズと需要にどのように適応させようとしているかを、特に持続可能なLTC制度の構築を通して説明することを目的として実施します。

これに関連した別の新規研究プロジェクトが、人口高齢化を踏まえた持続可能な資金調達（WHO保健制度ガバナンス・資金供給部門、WHO高齢化部門、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス、京都大学、カナダ・ダルハウジー大学、国立長寿医療研究センターおよびハーバード大学、2021～23年）です。これは、WHO本部の3つの専門部門が共同で取り組むグローバルな研究事業です。ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスは、本研究から得られた予備的な分析を発表しました。加えて、4本のバックグラウンドペーパー構築のために、継続的なケア（LTC）におけるジェンダー公平性、国の公的な資金調達策、およびイノベーションに関する迅速レビュー、さらには、日本の関西地域から得られる知見に関して、それぞれ委託研究を実施中です。本研究は、2023年に更新される「WHO Financing Brief for Long-Term care（非公式訳：継続的なケアに関するWHO資金調達概要）」に盛り込まれる見込みです。

2018年に始動した経済協力開発機構（OECD）との共同研究は、3段階のフェーズで展開しています。フェーズ1では、WKCはOECDと連携し、各国がUHCおよび経済的保護の推進にあたり価格設定を政策手段として制度化するため、保健医療サービスの価格設定と投資をどのように行っているかを調べ、研究結果の要約と日本を含む9件の事例研究を盛り込んだ書籍を出版しました：保健医療における価格設定と価格規制：ユニバーサル・ヘルス・カバレッジを推進するための教訓（OECD、WPRO、およびEURO・WPRO地域内の大学、2018～21年）。本書の研究結果を用いて、WKCはWHO保健制度ガバナンス・資金供給部門と協力し、WHO保健医療財政ポリシー・ブリーフシリーズの中で、価格設定・規制に関する各国向けの概要を発表しました。フェーズ2では、高齢者の継続的なケアにおける資金調達および価格設定に研究対象を拡大しました：高齢者の継続的なケアにおける価格設定（OECD、およびEURO・WPRO地域内の大学、2020～21年）。この研究からも、9件の事例研究が実施され、そこから得られた教訓の要約が発表されました。さらに研究の成果を一般に広めるため、「継続的なケアに関するWKC政策シリーズ」を立ち上げ、その中で、事例研究ごとに読みやすい要約と主導研究者のビデオインタビューをセットにしたポリシー・ブリーフを9本作成しました。フェーズ3は2021年に始まりました。慢性疾患に対する質の高い保健医療サービスを強化するための購入手段（OECD、WHO保健制度ガバナンス・資金供給部門、2021～23年）に関する研究からは、非感染性疾患（NCD）に対する介入と慢性期ケアの質を向上させるための購入手段と取り決めについて、十分なエビデンスに基づく低・中所得国向けの政策ガイダンスを作成する予定です。

出版物 (2021~2022年)

書籍

- Barber SL, van Gool K, Wise S, Woods M, Or Z, Penneau A et al. Pricing long-term care for older persons. Geneva: World Health Organization, Organisation for Economic Co-operation and Development; 2021. Licence: CC BY-NC-SA 3.0 IGO.

学術論文

- Aung TNN, Aung MN, Moolphate S, Koyanagi Y, Ichikawa M, Supakankunti S, Yuasa M. Estimating Service Demand for Intermediary Care at a Community Integrated Intermediary Care Center among Family Caregivers of Older Adults Residing in Chiang Mai, Northern Thailand. *Int J Environ Res Public Health* 2021; 18(11):6087. <https://doi.org/10.3390/ijerph18116087>
- Aung TNN, Aung MN, Moolphate S, Koyanagi Y, Supakankunti S, Yuasa M. Caregiver Burden and Associated Factors for the Respite Care Needs among the Family Caregivers of Community Dwelling Senior Citizens in Chiang Mai, Northern Thailand. *Int J Environ Res Public Health* 2021; 18(11):5873. <https://doi.org/10.3390/ijerph18115873>
- Aung TNN, Aung MN, Moolphate S, Koyanagi Y, Mulati N, Supakankunti S, Yuasa M. Thai older people's willingness (intention) to participate in a care prevention, community group exercise program: an assessment before implementing an intervention trial in Chiang Mai, Northern Thailand. *Int J Environ Res Public Health* 2021;18:4044. <https://doi.org/10.3390/ijerph18084044>
- Aung M, Moolphate S, Yuasa M, Aung T, Koyanagi Y, Supakankunti S, Ahmad I, Kayano R, Ong P. Community-Integrated Intermediary Care (CIIC) service model to enhance family-based, long-term care for older people: protocol for a cluster randomized controlled trial in Thailand. *JMIR Res Protoc* 2021;10(3):e20196. URL: <https://www.researchprotocols.org/2021/3/e20196>. DOI: 10.2196/20196
- Bayly J, Bone AE, Ellis-Smith C, Tunnard I, Yaqub S, Yi D, Nkhoma KB, Cook A, Combes S, Bajwah S, Harding R, Nicholson C, Normand C, Ahuja S, Turrillas P, Kizawa Y, Morita T, Nishiyama N, Tsuneto S, Ong P, Higginson IJ, Evans CJ, Maddocks M. Common elements of service delivery models that optimise quality of life and health service use among older people with advanced progressive conditions: a tertiary systematic review. *BMJ Open*. 2021 Dec 1;11(12):e048417. doi: 10.1136/bmjopen-2020-048417. PMID: 34853100; PMCID: PMC8638152.
- Han TDT, Nakamura K, Seino K, Duc VNH, Vo TV. Do communication patterns affect the association between cognitive impairment and hearing loss among older adults in Vietnam? *Int J Environ Res Public Health* 2021;18:1603. <https://doi.org/10.3390/ijerph18041603>
- Hirashiki A, Shimizu A, Nomoto K, Kokubo M, Suzuki N, Arai H, Systematic Review of the Effectiveness of Community Intervention and Health Promotion Programs for the Prevention of Non-Communicable Diseases in Japan and Other East and Southeast Asian Countries. *Circulation Reports* 2022; 4: 149-157. doi.org/10.1253/circrep.CR-21-0165
- Kowal, P., Tun, M., Leik, S. and Rocco, I. (2021) Contributions of Social Networks to Health and Care Services in Myanmar's Older Adult Population: 2012 Myanmar Aging Study. *Health*, 13, 1530-1545. doi: [10.4236/health.2021.1312109](https://doi.org/10.4236/health.2021.1312109)
- Lorenzoni L, Dougherty S. Comparison of health and hospital prices and volumes across OECD countries. *Health Services Insight* 2022. Jun 23; 15:11786329221109755. DOI: [10.1177/11786329221109755](https://doi.org/10.1177/11786329221109755) eCollection 2022.
- Moncatar TRT, Nakamura K, Siongco KLL, Seino K, Carlson R, Canila CC, Javier RS, Lorenzo FME. Interprofessional collaboration and barriers among health and social workers caring

for older adults: a Philippine case study. Hum Resour Health 2021;19:52. <https://doi.org/10.1186/s12960-021-00568-1>

- Moncatar TR, Nakamura K, Siongco KLL, Rahman M, Seino K. Prevalence and determinants of self-reported injuries among community-dwelling older adults in the Philippines: A 10-year pooled analysis. Int J Environ Res Public Health 2020;17:4372. doi.org/10.3390/ijerph17124372
- Nagai Y, Kojima S, Kowa H, Kayano R, et al. Kobe project for the exploration of newer strategies to reduce the social burden of dementia: a study protocol of cohort and intervention studies. BMJ Open 2021; 11:e050948. <https://doi.org/10.1136/bmjopen-2021-050948>
- Siongco KLL, Nakamura K, Seino K, Moncatar TRT, Tejero LMS, De La Vega SAF, et al. Improving community health workers' attitudes toward collaborative practice in the care of older adults: an in-service training intervention trial in the Philippines. Int J Environ Res Public Health 2021;18:9986. <https://doi.org/10.3390/ijerph18199986>
- Wang X, Chen Y, Akl EA et al. The reporting checklist for public versions of guidelines: RIGHT-PVG. Implementation Sci 2021;16(10). <https://doi.org/10.1186/s13012-020-01066-z>
- Yasumoto S, Gondo Y. CBSI as a Social Innovation to Promote the Health of Older People in Japan. Int J Environ Res Public Health 2021;18:4970. <https://doi.org/10.3390/ijerph18094970>

政策概要

- [Managing people with cognitive decline: validation of a checklist](#). WKC Evidence Summary. October 2021.

WKC政策シリーズおよびワーキングペーパー

- *Australia*: Case study on pricing long-term care- [DOWNLOAD](#)
- Wise S, Woods M, van Gool K. Aged care in Australia: consumer choice and control within a highly regulated market-based system. [WKC Policy Series on Long-Term Care No. 1: Australia](#). August 2021.
- *France*: Case study on pricing long-term care - [DOWNLOAD](#)
- Or Z, Penneau A. Long-term care in France: the loose connection between pricing, costs and quality with regional inequalities. [WKC Policy Series on Long-Term Care No. 2: France](#). August, 2021.
- *Germany*: Case study - [DOWNLOAD](#)
- Milstein R, Mueller M, Lorenzoni L. Germany's difficult balancing act: universality, consumer choice and quality long-term care for older persons. [WKC Policy Series on Long-Term Care No. 3: Germany](#). August 2021.
- *Japan*: Case study- [DOWNLOAD](#)
- Ikegami N. Long-term care insurance in Japan: expanding services, increasing costs and developing new forms of institutional care. [WKC Policy Series on Long-Term Care No. 4: Japan](#). August 2021.
- *Republic of Korea*: Case study - [DOWNLOAD](#)
- Kwon S. Long-term care in the Republic of Korea: overcoming coordination challenges between health and social services to achieve universal coverage. [WKC Policy Series on Long-Term Care No. 5: Republic of Korea](#). August 2021.
- *Netherlands*: Case study - [DOWNLOAD](#)
- Bakx P, Schut E, Wouterse B. Price setting and contracting help to ensure equitable access in the Netherlands. [WKC Policy Series on Long-Term Care No. 6: The Netherlands](#). August 2021.
- *Spain*: Case study - [DOWNLOAD](#)

- Flores M. Increasing beneficiaries and the decline in informal care in the Spanish long-term care system for older persons. [WKC Policy Series on Long-Term Care No. 7: Spain](#). August 2021.
- *Sweden*: Case study - [DOWNLOAD](#)
- Lorenzoni L. “Ageing in place”: how Sweden provides and pays for universal and comprehensive long-term care for older persons. [WKC Policy Series on Long-Term Care No. 8: Sweden](#). August 2021.
- *United States of America*: Case study - [DOWNLOAD](#)
- Lorenzoni L. A safety net that leaves large gaps in access to needed long-term care services in the United States of America (USA). [WKC Policy Series on Long-Term Care No. 9: United States of America](#). August 2021.
- Costa-Font J, Raut N. [Global Report on Long-Term Care Financing](#). London School of Economics and Political Science. June 2022.
- Barber SL, Lorenzoni L, Roubal T. [Price setting for health services: a taxonomy](#). Working Paper. WHO Centre for Health Development. 22 June, 2021
- *Promoting healthy ageing in the Western Pacific Region: implications for health expenditure trends and economic growth*. The economics of healthy and active ageing series: New evidence for the Western Pacific Region. WHO Centre for Health Development and the European Observatory for Health Systems and Policies. World Health Organization 2021.
- Exploring available data collection mechanisms in Myanmar to examine how ageing and older populations are included in health and social services as part of achieving UHC by 2030 https://extranet.who.int/kobe_centre/en/project-details/asean_myanmar University of Economics, Yangon, Myanmar, 2021.

グローバルシミュレーター

- Population Ageing financial Sustainability gap for Health systems (PASH) Simulator. <https://eurohealthobservatory.who.int/themes/observatory-programmes/health-and-economy/population-ageing-financial-sustainability-gap-for-health-systems-simulator>

災害・健康危機管理

背景

2019年から2023年までのWHO第13次総合事業計画（GPW13）における3つの戦略的優先課題の1つは、現在よりも10億人多くの人々を、健康危機からよりよく保護する、というものです。この優先課題は、国、地域、グローバルレベルでのレジリエンス（強靱性）を構築・維持し、深刻かつ長引く危機に見舞われた人々が、必要不可欠な医療サービスに速やかにアクセスできるよう図ることを目指しています。よりよい災害・健康危機管理のため、WKCは、世界全体の科学的なエビデンスの構築を強化するという取り組みにWKCは貢献してきました。その代表例となるのが「災害・健康危機管理に関するWHOグローバルリサーチネットワーク」（英語略称：Health EDRM RN、日本語では以下グローバルリサーチネットワークとする）です。第3回国連防災世界会議における採択文書「仙台防災枠組2015-2030」（仙台枠組）では、保健医療のニーズが特にハイライトされており、WHOの「災害・健康危機管理枠組（2019）」にもそれが受け継がれています。

WKCは、甚大な災害の予防、備え、対応、復旧について広範な経験を有する国内外の専門家と継続的に協力していく絶好の立場にあります。研究ギャップ分析や、2018年に神戸市で開催された専門家会議 および2019年に淡路島で開催されたHealth EDRM RNの第1回代表者会議からの提言、日本における教訓や経験を踏まえ、WKCは2018年から2026年にかけて注力すべき複数の研究分野を策定しました。また、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）下における災害・健康危機管理の研究課題が浮かび上がった事を受け、COVID-19関連の課題も組み込んでいます。

目標

1. 研究手法の標準化を図るために本研究領域全体のギャップおよび情報ニーズに対応するとともに、倫理的課題にも対処する。
2. 保健医療データの収集と管理について、最も適切なフォーマットと主要内容を明らかにするとともに、研究手法の標準化および災害の予防、備え、対応、復旧全般にわたる健康影響についての比較分析を可能にしていく。
3. 科学的エビデンスに基づく政策立案 — 適応可能な保健・医療システムを介し、被災者の保健ニーズへの総合的なアプローチに焦点を当てた、効果的な災害対応を可能にする政策立案を支援する研究を実施する。
4. 高齢者など脆弱な集団の特定の保健ニーズを調査する。

進捗報告（2021～2022年）

2021～2022年に終了した研究の成果

2021年の重要な成果の1つが、災害・健康危機管理の研究手法に関するWHOガイダンス（2021年10月公式発行）です。本ガイダンスは、100人を超える世界の専門家が執筆し、災害・健康危機管理研究の計画、実施、報告における包括的なニーズに対応しています。本ガイダンスはLiving referenceとして策定されており、常に最新の情報を更新していく予定です。2022年改訂版は、新型コロナウイルス感染症の状況における本ガイダンスの活用法に関する章を追加し、2022年10月21日に発行されました。この改訂版にはWHO事務局長の序文が寄せられています。この改定版のガイダンスをWHO本部の他の部門や地域事務局に発信するため、11月に公開記念ウェビナーを開催する予定です。また、本ガイダンスをより使いやすくし、利用を促進するため、2021年初頭からEvidence Aid（英国のシンクタンク）と協力して研修教材を作成しています。WKCのウェブサイトにおける各章のページに要約文および参考文献の紹介文を追加し、執筆者による動画講義やポッドキャスト（音声による紹介）なども作成して、執筆者とも協力しながら 知識の普及に努めて参ります。これらの教材は、Health EDRM研究手法に関

する専用ウェブページで入手可能です。こうした取り組みと並行し、本ガイダンスのグローバル普及プロジェクトが、グローバルリサーチネットワークに参加する主要な専門家たちの支援により2022年3月に立ち上げられました。特に日本においては、3つの学術団体（日本災害医学会、日本疫学会、日本公衆衛生学会）、10以上の大学、そしてWKCと研究協力等で関わりのある50名以上の個人研究者と連携して、国内普及プロジェクトが立ち上げられました。こうした専門家の支援により日本語への（非公式）翻訳が進められており、2023年上旬に完了する予定です。国内におけるこれらの取り組みは、2022年3月に日本のメディア向けのオンライン 記者発表で周知されました。さらには、さまざまな地域・国の大学や研究機関と連携して、学生・若手専門家に対する教育・研修を提供する合同サマースクールを2023年に開催できるよう準備を進めています。

個別の研究プロジェクトに関しては、2019年の公募に基づく以下の3つの研究プロジェクトが完了しました。

「危機・災害等の発生前・発生時・発生後における保健医療データ管理に関するスコーピングレビューと事例研究」。本研究は、広島大学、産業医科大学、ジョンズ・ホプキンス大学、兵庫県災害医療センター、吉備国際大学、モザンビーク保健省、厚生労働省DMAT事務局、WHO緊急医療チームによる共同研究です（2020～2021年）。本プロジェクトはスコーピング・レビューと事例研究から構成されています。災害時の保健医療データの収集に関するスコーピング・レビューの結果、標準化された保健医療データ収集の標準化ができていなかったこと、これが、WHOの緊急医療チーム（EMT）の「日報すべき最小のデータセット」（MDS）、および「日本版災害時診療概況報告システム」（J-SPEED）の開発を後押ししたことが明らかになりました。また、5つの事例研究では、日本とモザンビークの4つの災害にEMTのMDS およびJ-SPEEDを適用した結果、標準化されたデータ収集ツールによってタイムリーな保健医療ニーズが把握でき、災害現場や対策本部が資源配分の決定に大いに役立つことが実証されました。

「災害・健康危機後のメンタルヘルスの長期的予後の決定要因：システマティックレビューとアジア太平洋災害精神保健ネットワークの設立」。本研究は、カーティン大学、国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所、兵庫県こころのケアセンター、メルボルン大学、ハーバード大学により実施されました（2020～2021年）。英語、日本語、中国語の文献で、災害後の長期的な心的外傷後ストレス症状、うつ病および不安神経症に関する研究論文を選定してシステマティックレビューを行いました。レビューの結果、災害の種類にかかわらず、被災者におけるメンタルヘルス課題の高い有病率と症状の長期化が明らかになりました。こうしたエビデンスは、短期的な対策だけでなく、長期にわたり被災者を観察・支援する仕組みの必要性を裏付けています。また、このレビューにより、メンタルヘルスの長期的予後における保護的因子とリスク因子が特定され、その実装が次の研究課題であることが示されました。さらに、この研究プロジェクトを通して、アジア太平洋災害精神保健ネットワークが設立されました。このネットワークは、アジア太平洋の各国・地域から災害に関する精神医学、心理学、および公衆衛生の第一線の専門家が参加しており、地域固有の課題について検討・更新する役割を担います。ネットワークでは5つの優先分野（コミュニティの関与、高リスクグループの特定など）を特定し、月例会合で定期的に進捗状況を更新しています。ネットワークではまた、オンラインの連続ウェビナーを主宰し、キャリアの浅い研究者に助言を行い、学会（国際トラウマティックストレス学会2021年大会等）で共同研究や共同シンポジウムを 推進しています。

「災害・健康危機管理における保健医療人材開発：文献レビュー、事例研究、専門家協議を通じた研究」。本研究を実施したのは、香港中文大学、ハーバード大学、四川大学、東北大学、兵庫県立大学、東ピエモンテ大学、フィリピン大学マニラ校です（2020～2021）。このプロジェクトの目的は、災害・健康危機管理の人材開発における重点項目を特定し、各国各地域の政策と実践に資することです。多言語の文献レビュー（英語、日本語、中国語）および12の事例研究（低・中所得国 [LMICs] から7件、高所得国 [HICs] から4件、WHOトレーニングについて1件）により、人材開発の重点項目、円滑な人材採用・派遣の推進要因と阻害要因、そしてさまざまな環境や状況（例：中国の少数民族、2015年ネパール地震の際の保健医療ボランティア、日本、レバノンおよびフィリピンの全国トレーニングプロ

グラム)における優事例や教訓が明らかになりました。この文献レビューと事例研究から人材開発を成功させるための46のキーポイント(9つの分野に分類)が特定され、それを世界の専門家31名(低・中所得国から18名、H高所得国から13名)にデルファイ法でのコンセンサス調査を通じて優先付けし、低・中所得国に関する44項目と高所得国に関する34項目が選別されました。

2018～23年に進行中の研究と期待される成果

WHO神戸センターは、引き続きWHO災害・健康危機管理に関するグローバルリサーチネットワーク(Health EDRM RN)事務局の役割を果たし、グローバルリサーチネットワークの参加者と協力した連携活動を、国や地域、世界レベルで推進します。このグローバルリサーチネットワークの第3回代表者会議は2021年11月22日にオンラインで開催され、災害・健康危機管理に関するWHOグローバル研究指針の策定、災害・健康危機管理に関するWHOナレッジハブの構築、および災害・健康危機管理の研究手法に関するWHOガイダンスの更新と普及促進など、進行中の取り組みについて議論し、引き続き推進していくことを決定しました。この会議報告書はWHO神戸センターのウェブサイトです¹。Health EDRMの研究手法と関連した多くのプロジェクトが進行中です。グローバル研究指針の策定については、本部の専門家との話し合いにより、世界の専門家に対するアンケート調査を準備中です。ナレッジハブについては、これまでに実施した研究プロジェクトの主導研究者やグローバルリサーチネットワークの主要な参加者の協力を得て、最初のコンテンツをつくるための情報収集が行われ、それらを要約したウェブページが2022年10月に公開予定です。コンテンツの構築に関する専門家との協議、既存のナレッジハブとのリンク、研究結果の情報発信なども進行中です。こうした活動には世界の専門家、および第一線で活躍する組織・ネットワークが関わっています(例:コクランセンター、国際図書館連盟、世界災害救急医学会など)。

新型コロナウイルス感染症流行下における災害・健康危機管理研究についても、2020年の公募に基づき3つの研究プロジェクトが進行中です。各プロジェクトの進捗状況は以下のとおりです。

「コミュニティの強靱性の向上に向けた戦略の体系的策定と評価」。本研究は、ベイラー大学、広島大学、マクレナン郡医学教育研究財団、兵庫県立大学、ロビン・ムーア&アソシエーツ、クイーンズランド工科大学、バングラデシュ保健・家族福祉省、テキサス大学サウスウェスタン・メディカル・センターにより実施されています。このプロジェクトは、将来の災害における健康危機のリスクを低減するとともに、コミュニティの回復力を向上させるため、長期的かつ持続可能な戦略の達成に向け優先すべきアクションの構築を目指しています。この目標を達成するため、研究チームは多くの国で地方自治体職員向けの教育ワークショップを行いました。ワークショップでは、「より良い復興」のために優先すべきアクションを特定するため、国連防災機関(UNDRR)が開発したスコアカードを用い、参加した自治体の準備、対応および回復能力に関する情報を体系的に収集しました。研究の成果として、ポリシーブリーフや複数のオープンアクセスの学術論文を発表する予定です。

「新型コロナウイルス感染症のパンデミック下における、全社会的アプローチを用いた災害・健康危機管理の事例研究」。この研究は、広島大学、産業医科大学、カトリック大学校(韓国)、立命館アジア太平洋大学、モンゴル国立医科大学、ジョンズ・ホプキンズ大学、東ピエモンテ大学、タイ保健省、国立病院機構災害医療センター、淀川キリスト教病院が実施しています。本研究は、日本、韓国、米国、イタリア、タイ、イラン、モンゴルにおける事例についてのシステムティックレビューと事例研究分析の実施を通じ、COVID-19の世界的流行時の全社会的アプローチによる災害・健康危機管理について、各国の経験を研究することを目的としています。この研究結果の要約は、将来のパンデミックなどの危機により良く備えるための政策やプログラムに反映されるよう、複数のオープンアクセスの学術誌に論文として発表される予定です。

「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)パンデミック下における精神的ストレス軽減のためのデジタル介入アルゴリズムの開発」。京都大学により実施されている本研究は、新型コロナウイルス感染症の

状況においてインターネットを活用したメンタルヘルス治療法の質と信頼性を向上させるという、新たな研究ニーズに基づいています。インターネットを利用した認知行動療法 (CBT) には全体としてプラスの効果があることを示す科学的なエビデンスが増えています。しかし、サービスを幅広く提供するには、5つの主要項目から成るCBTのどの要素を、治療を受ける人の背景に応じてどのように組み合わせで提供するか、というエビデンスと知見が必要になります。本研究では、「ヘルシーキャンパストライアル」で得られたデータを分析して、この課題に取り組みます。このトライアルは関西地域の1093人の学生を対象とした、スマートフォンアプリにより複数のCBTが提供された無作為化比較試験です。このプロジェクトの目的は、最適なデジタルメンタルヘルス介入コンポーネントを効率的に提供できる、エビデンスに基づく個別戦略を開発することです。

出版物

書籍

- World Health Organization (2022). WHO Guidance on Research Methods for Health Emergency and Disaster Risk Management Revised 2022. World Health Organization. https://extranet.who.int/kobe_centre/en/what_we_do/health-emergencies/research-methods

学術論文

- Bhattarai HK, Hung KKC, MacDermot MK, Hubloue I, Barone-Adesi F, Ragazzoni L, Della Corte F, Acharya R, Graham CA. Role of Community Health Volunteers Since the 2015 Nepal Earthquakes: A Qualitative Study. *Disaster Med Public Health Prep.* 2022 Mar 15;1-7. doi: 10.1017/dmp.2022.47. Epub ahead of print. PMID: 35287784.
- Chimed-Ochir O, Yumiya Y, Taji A, Kishita E, Kondo H, Wakai A, Akahoshi K, Chishima K, Toyokuni Y, Koido Y, Kubo T. Emergency Medical Teams' Responses during the West Japan Heavy Rain 2018: J-SPEED Data Analysis. *Prehosp Disaster Med.* 2022 Feb 28;37(2):1-7. doi:10.1017/S1049023X22000231. Epub ahead of print. PMID: 35225205; PMCID: PMC8958047.
- Kayano R, Lin M, Shinozaki Y, Nomura S, Kim Y. Long-Term Mental Health Support after Natural Hazard Events: A Report from an Online Survey among Experts in Japan. *Int J Environ Res Public Health.* 2022 Mar 4;19(5):3022. doi: 10.3390/ijerph19053022. PMID: 35270712; PMCID: PMC8910183.
- Newnham EA, Mergelsberg E, Chen Y, Kim Y, Gibbs L, Dzidic P, Ishida DaSilva M, Chan EYY, Shimomura K, Narita Z, Huang Z, Leaning J. Long term mental health trajectories after disasters and pandemics: A multilingual systematic review of prevalence, risk and protective factors. *Clinical Psychology Review.* Vol. 97. 2022. 102203. ISSN 0272-7358, <https://doi.org/10.1016/j.cpr.2022.102203>.
- Newnham EA, Chen Y, Gibbs L, Dzidic P, Guragain B, Balsari S, Mergelsberg E, Leaning J. The mental health implications of domestic violence during COVID-19. *Int. J. Public Health.* 2022. 66. DOI=10.3389/ijph.2021.1604240. ISSN=1661-8564.
- Oktari RS, Dwirahmadi F, Gan CCR, Darundiyah K, Nugroho PC, Wibowo A, Chu C. Indonesia's Climate-Related Disasters and Health Adaptation Policy in the Build-Up to COP26 and Beyond. *Sustainability.* 2022; 14(2):1006. <https://doi.org/10.3390/su14021006>
- Sugimura M, Chimed-Ochir O, Yumiya Y, Taji A, Kishita E, Tsurugi Y, Kiwaki K, Wakai A, Kondo H, Akahoshi K, Chishima K, Toyokuni Y, Koido Y, Kubo T. Incidence of Acute Respiratory Infections during Disasters in the Absence and Presence of COVID-19 Pandemic. *Prehosp Disaster Med.* 2022 Jan 11:1-10. doi: 10.1017/S1049023X22000085. Epub ahead of print. PMID: 35012691.
- Kawa N, Abisaab J, Abiad F, Badr K, El-Kak F, Alameddine M, Balsari S. The toll of cascading crises on Lebanon's health workforce. *The Lancet.* Open Access. Published November 17, 2021.DOI: [https://doi.org/10.1016/S2214-109X\(21\)00493-9](https://doi.org/10.1016/S2214-109X(21)00493-9)

- Dalal S, Singh P. Chapter 16: Mainstreaming safety within hospitals and institutionalizing emergency preparedness in healthcare sector. In Gupta AK, Barwal A, Madan A, Sood A, Bindal MK. (eds.) Health Adaptation and Resilience to Climate Change and Related Disasters: A Compendium of Case Studies. National Institute of Disaster Management. New Delhi. 2021. pp 332.
- Hart A, Rodríguez Á, Carvajal J, & Ciottone, G. 2021. Earthquake response in Chile: A case study in health emergency and disaster risk management. American Journal of Disaster Medicine. 2021. 16(4), 313-318. doi:<https://doi.org/10.5055/ajdm.2021.0413>
- Hung KKC, MacDermot MK, Chan EYY, Liu S, Huang Z, Wong CS, Walline JH, Graham CA. CCOUC Ethnic Minority Health Project: A Case Study for Health EDRM Initiatives to Improve Disaster Preparedness in a Rural Chinese Population. International Journal of Environmental Research and Public Health. 2021; 18(10):5322. <https://doi.org/10.3390/ijerph18105322>
- Hung KKC, Mashino S, Chan EYY, MacDermot MK, Balsari S, Ciottone GR, Della Corte F, Dell’Aringa MF, Egawa S, Evio BD, Hart A, Hu H, Ishii T, Ragazzoni L, Sasaki H, Walline JH, Wong CS, Bhattarai HK, Dalal S, Kayano R, Abrahams J, Graham CA. Health Workforce Development in Health Emergency and Disaster Risk Management: The Need for Evidence-Based Recommendations. International Journal of Environmental Research and Public Health. 2021; 18(7):3382. <https://doi.org/10.3390/ijerph18073382>
- Gan CCR, Oktari RS, Nguyen HX, Yuan L, Yu X, KC A, Hanh TTT, Phung DT, Dwirahmadi F, Liu T, Musumari PM, Kayano R, Chu C. A scoping review of climate-related disasters in China, Indonesia and Vietnam: Disasters, health impacts, vulnerable populations and adaptation measures. International Journal of Disaster Risk Reduction. Volume 66, 2021, 102608, ISSN 2212-4209, <https://doi.org/10.1016/j.ijdrr.2021.102608>.

学術論文 (査読中)

- Kubo T. et al. First activation of the WHO Emergency Medical Team Minimum Data Set Daily Report in Mozambique Tropical Cyclone Idai response 2019. Under submission.
- Kubo T. et al. Emergency Medical Teams Responses during the Hokkaido Earthquake 2019: J-SPEED Data Analysis. Under submission.
- Hung KKC, MacDermot MK, Chan EYY, Mashino S, Balsari S, Ciottone GR, Della Corte F, Dell’Aringa MF, Egawa S, Evio BD, Hart A, Ishii T, Ragazzoni L, Sasaki H, Walline JH, Wong CS, Dalal S, Kayano R, Abrahams J, Huda Q, Graham CA. Health Emergency and Disaster Risk Management Workforce Development Strategies: Delphi Consensus Study. Under submission.

会議報告書

- Report of the 3rd Health EDRM RN Core Group Meeting: https://extranet.who.int/kobe_centre/en/project-details/TPRN

¹ https://extranet.who.int/kobe_centre/sites/default/files/HealthEDMRN_3rdCGM_22Nov2021_Report.pdf

地元との連携強化: 地域社会への貢献

背景

1995年、WHO神戸センター（WKC）はWHO執行理事会決議と阪神淡路大震災からの復興のシンボルとして神戸に設立されました。WKCはWHO本部直轄の研究センターであり、グローバルな任務を担うと同時に、情報発信等を通じて地元貢献にも取り組んでいます。つまり、国際貢献と地元貢献の二つの役割を持っています。その地元における役割の一環として、WKCは関西圏に拠点を置く研究機関や地方自治体と連携し、地元とも関連の深いグローバルヘルス課題に対する連携協力を促進しています。また、地域社会に貢献するべく、WKCの研究やその他の活動に関する成果をより広く普及できるよう努めています。

目標

1. 各国から得た教訓を共有し、UHCとSDGsへのコミットメントに基づく目標を共に達成することを目指す。国を越えた協力を促進する。
2. WKCの研究活動の広報に努める。
3. 地元ひょうご・神戸における啓発と啓蒙に努める。

進捗報告（2021年11月-2022年11月）

目標1：国際協力を促進する

共同研究 WKCは引き続き、地元の研究機関と連携して健康に関する共通の課題に共同で取り組みます。WKC2018～2026年研究計画の3つの研究テーマにおいて、関西圏および研究パートナーに関連する課題の特定に努めています。このように、関西圏での経験から習得したことはWKCの世界戦略プログラムの一部となっています。また、関西圏の研究者チームと国際的な大学研究者をつなぐ機会の提供にも努めています。その結果、世界的視点で研究するスタンスを維持しながら、関西圏における関係の強化と研究ネットワークの拡大が可能になります。

例えば、2021～22年には、世界中の研究者とともに研究を行う関西地域の研究者を共同で支援する新プロジェクトと継続プロジェクトに取り組みました。これらのパートナーシップには、兵庫県立大学、兵庫県こころのケアセンター、神戸大学、甲南大学、京都大学、京都府立医科大学、大阪大学、兵庫県災害医療センター、大阪医科大学、奈良県立医科大学、和歌山県立医科大学が参加しています。

WHO災害・健康危機管理に関するグローバルリサーチネットワーク（Health EDRM RN）の事務局：

WKCは、国際的専門家や関西に拠点を置く専門家で構成された「WHO災害・健康危機管理に関するグローバルリサーチネットワーク（英語略称：Health EDRM RN、日本語では以下「グローバルリサーチネットワーク」とする）」の設立に大きな貢献を果たしました。設立以来、WKCはこの世界初のネットワークの事務局として活動しています。このネットワークを通じて、グローバルな連携協力が進められ、その大きな成果として、「災害・健康危機管理の研究手法に関するWHOガイダンス」が作成されました。日本から12名の専門家が共著者として参加し、日本における災害リスク軽減の歴史と成功事例を共有しました。これには、地元である兵庫県立大学および兵庫県こころのケアセンター研究者が書いた阪神淡路大震災（1995）での経験が含まれています。WKCは、兵庫県および神戸市でTPRNの活動を進めるため、三つの主要な会議を主催しました。アジア太平洋災害医学会（2018年）と連携して開催された、災害・健康危機管理の研究ニーズに関する神戸専門家会議、グローバルリサーチネットワークの代表者会議（淡路島）および日本の専門家を交えたWKCフォーラム（淡路島、2019年）、日本災害医学医学会学術集会（神戸、2020年）における災害・健康危機管理研究に関するワークショップです。

海外からの訪問者および国際会議 COVID-19のパンデミックが続く中、WKC職員はリモートワーク

を実施しており、オフィスへの一般の方の立ち入りを禁止しています。このような状況から、2020年から2021年にかけては海外からの訪問者を受け入れることや対面でのミーティングが不可能となっています。しかしながら、WKCではオンラインミーティングに切り替え、海外の専門家との定例会合をリモートで実施しており、さらに年に一度のWHO災害・健康危機管理に関するグローバルリサーチネットワーク(TPRN)代表者会議をオンライン形式にして継続しています。多くの場合、オンライン会議への移行により、より幅広いステークホルダーや参加者との接点を確保することができました。WKCフォーラムに加え、開催済みまたは開催予定の主要なオンライン会議は以下の通りです。

- **2021年11月「WHO災害・健康危機管理に関するグローバルリサーチネットワーク 第3回代表者会議」**がオンラインで開催されました。世界の専門家と関西を拠点とする専門家が会合に参加しました。
- **2022年10月「WHO災害・健康危機管理に関するグローバルリサーチネットワーク 第4回代表者会議」**がオンラインで開催される予定です。

目標2: WKCの研究活動情報の広報に努める

WKCフォーラムは、WKCの研究および私たちが暮らす地域社会への貢献を広報し普及させるための重要な手段です。WKCは少なくとも年に3回、フォーラムを開催するようにしています。その参加者は学術関係者と一般市民です。2021年-2022年に、7回のフォーラムを開催しました。

- **2021年2月「高校生国際問題を考える日」**を兵庫県教育委員会、大阪大学、兵庫県内の高校との共催で、6年連続で開催。COVID-19の影響により初めてオンライン形式での開催となった。地元の若者への貢献活動の一環として、WKCはJICA関西の担当者との対談を行い、高校生からの質問に回答した。兵庫県内の12の高校から200名を超える生徒がこのオンラインイベントに参加した。
- **2021年10月「WHO西太平洋地域委員会の関連イベント グローバルヘルス高校生サミット」**を兵庫県姫路市で開催（ハイブリッド形式での開催）。学校保健とCOVID-19に関連する4つのテーマについて、7校の高校生チームがプレゼンテーションを行う。フォーラムの最後に生徒たちが「姫路高校生宣言」をWPROの代表者、姫路市長、兵庫県知事に手渡す。参加者は200名を超えた。
- 2022年2月11日：毎年恒例のWKC高校生フォーラムを兵庫県教育委員会との共催、神戸大学の協力により開催—参加者200名
- 3月26日：「WKCフォーラム2022 コロナ禍における学校と生徒のメンタルヘルス」を開催—参加者150名
- 6月25日：WKCフォーラム「保健医療制度の根幹を支える医療従事者の役割を再考する」を開催—参加者150名
- 7月28日：京都大学との共催により、WKCフォーラム「複合課題をもつ世帯 周縁化された人々への支援にはどのような制度・対策が必要か?～誰一人取り残さない支援へのチャレンジ～」を開催—参加者150名
- 9月25日：Inochi未来プロジェクト（学生団体）との共催により「WKCフォーラム2022 Our planet, our health—私たちが考える地球規模の健康課題—」をWHOサマースクール（9月5～24日）参加の大学生が開催—参加者220名

ウェブサイトとソーシャルメディア ウェブサイトでは、事業内容や進行中の研究活動へのアクセスをより広く提供することを目的としています。2018年以降、WKCでは2言語対応の新たなウェブサイトを開設しています。ウェブサイトでは現在、3つの研究テーマ、個別プロジェクト、地元との連携強化活動などの詳細が英語と日本語で掲載されています。またウェブサイトに加え、ツイッターやYouTubeのアカウントも開設しています。広報の専門家の協力を得て、短いニュース記事、研究概要、研究者のインタビュー動画、ツイッターでの定期的なツイートなど、幅広いマルチメディアを活用してWKCのアジェンダに関する情報を英語と日本語でより広く発信しています。その結果、オンライン広報へのアクセスは増加し、地域的でも世界的でも新規閲覧者を獲得しました。

COVID-19のパンデミックは2020年に始まりました。2020年の第2四半期以降、WKCは信頼性の高い技

術情報および一般市民向け情報の提供に大きく貢献してまいりました（詳細は下記の目標3に関連するセクションを参照）。WKCのウェブサイトにはCOVID-19に関する特設ページを設け、地元自治体や専門的な提言を行う官民の組織が活用できるよう、WHOによるテクニカルガイダンスを日本語に翻訳して掲載しています。また、一般市民向けのメッセージや情報画像を掲載し、リスクコミュニケーション資料に直接アクセスできるようにすると共に、WKCの地域社会への貢献についても示しています。これにより、COVID-19パンデミックの管理に役立つ正確な情報を一般市民に提供できたと考えています。

WKCのツイッターアカウントは科学とエビデンスに基づいたCOVID-19情報を発信する上で非常に重要なツールです。WKCの認知度が向上したことにより、ツイッタージャパンはCOVID-19情報の信頼できるリソースとしてWKCのアカウントをCOVID-19専用チャンネルに追加しました。さらには、ソーシャルメディアツール（ツイッターなど）の波及効果により、関西圏に加え他の地域においてもWKCが広く知られるようになりました。また2020年には、ソーシャルメディアのアニメーションや、WHOの「Science in 5」（5分でわかるサイエンス）シリーズのビデオをWKCのYouTubeアカウントで発信し始めました。その結果、YouTubeの視聴者は自然に増加し（2021年9月時点で200フォロワー以上）、COVID-19に関する内容二つと、資金調達に関する最新の研究一つ、そして1つは「災害・健康危機管理の研究手法に関するWHOガイダンス」関連のオンラインセミナーについてです。全体にTwitterやWHO神戸センターのウェブサイトへのアクセスの増大は、WHO神戸センターが発表する研究プログラムや研究パートナーの活動に関する他の情報にも波及し、オーディエンスの幅を広げています。WHO神戸センターのウェブサイトでは専用ページ「地元への貢献」で地元の活動に関する日本語のニュース記事を集めており、これにより、WHO神戸センターの研究活動やコミュニティによる活動（講義など）が分かりやすくなっています。これらの活動は全体として関西地域の内外における新型コロナウイルス感染症の拡大への対応に大きく貢献したと確信しています。

こうした戦略は目に見える効果を生んでいます。2019年4月以降、Twitterとウェブサイトの活動は着実に増え、これによりWHO神戸センターのウェブサイトへの訪問者が増えており（212,000ページビュー）、アクセス数のうち約80%は日本からです（2022年）。ウェブサイト、Twitter、メディアを統合したキャンペーンを行うと、ソーシャルメディアの訪問者数が急上昇し、フォロワーが増えることも分かりました。Twitterのフォロワーは9300を超え（2022年9月現在）、主要投稿記事の場合、Twitterは300万ビューに届き、ウェブサイトの訪問者は100万を超えます。日本に限ると、WHO神戸センターTwitterアカウントの著名フォロワー（WHO神戸センターの情報に対するリツイートで重要な支持者や相談役の役割を果たす）の中には、和田耕治医師のような医学専門家、神奈川県感染症情報センターのような地方自治体の情報センター、Lulu19のようなインフルエンサーの名前も見られます。WHO神戸センターのYouTubeアカウントは、多くが新型コロナウイルス感染症のリスクに関する翻訳情報を発信する動画、HEDRMウェビナー、研究パートナーのインタビューを広めるために用いられ、フォロワーは300に達し、プロフィール訪問者は6600を超えています。

各研究プロジェクトの成果を拡散する広報計画 WKCは研究プロジェクト毎に、成果をどのように普及させるかを明確にしています。具体的には、従来のジャーナルへの記事掲載、日本語と英語の研究開始時点および終了時点での研究概要、ウェブサイト上での研究内容の更新、研究者へのインタビュー、特定の研究プロジェクトや研究者についてのツイートや動画などが挙げられます。重要な研究結果やイベントのプレスリリースなどを通し、地元の神戸新聞や記者クラブなどとの連携が強化されました。COVID-19の影響によりソーシャルメディアやウェブでWKCの認知度が高まったことを活用して、研究成果を広める手段としてツイッターによる発信に組織的に取り組みました。2021～22年にWHO神戸センターのウェブサイトでは、日本語で73件と英語で27件のニュース記事が掲載されました。

目標3：地域社会で健康の意識向上に努める

学生への講演 COVID-19のパンデミックにより、2020年と2021年はWKC事務所での学生の受け入れを中止してきました。そこで、これまでの対面方式に代わって、WHOやWKCの活動について、小中学生、高校生、大学生を対象としたオンライン形式での講演を続けています。2020年はWKCのスタッフが小

学校、中学校、高校や大学の学部向けに20回の講演を行いました。2021-2022年は71回のオンライン講演を実施、大半が地元の学校や大学に対するものでした。

地域の委員会への参加 WKC職員は、地域の技術委員会や会議への参加を通じて、市民の保健向上に取り組んでいます。2021年から2022年に参加した委員会は以下の通りです。

- 兵庫県議会（健康福祉常任委員会にて講演「世界における新型コロナウイルス感染症の現状と対策」）
- 新型コロナウイルス対策に関する兵庫県専門委員会
- 兵庫県新型インフルエンザ等対策有識者会議
- 兵庫県感染症対策専門委員会
- 兵庫県受動喫煙防止対策検討委員会
- ひょうご・神戸健康危機管理会
- 神戸健康・医療戦略会議（オンライン）
- 神戸市認知症の人にやさしいまちづくりに関する有識者会議
- 神戸市感染症に対してレジリエントなまちづくりに関する有識者会議
- 神戸市ヘルスケア・サービス開発支援事業に関する有識者会議
- 神戸市健康創造都市KOBÉ推進会議（オンライン）
- 神戸医療産業都市推進機構ヘルスケア戦略委員会（オンライン）
- 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻社会疫学分野外部諮問委員会（オンライン）
- 国際防災・人道支援協議会
- 国際復興支援プラットフォーム（IRP）運営委員会

地元イベントへの参加 WKC職員は、可能な限り地元で開催されるイベントに貢献するよう努めています。また、関西圏外でのイベントにおいても、研究で得られた知見を広め、COVID-19に関する情報を普及させる機会として貢献しています。2021年から2022年に参加したイベントは以下の通りです。

2021 年

- 1月6日：災害リスク低減に関するUNITARワークショップ（オンライン）
- 1月22日：国際復興フォーラム2021（オンライン）
- 1月26日：国際防災・人道支援フォーラム2021（オンライン）
- 1月30日：「One Health」国際フォーラム（福岡県-オンライン）
- 2月7日：第64回兵庫県医師会学術セミナー
- 3月25日：アジア太平洋地域における認知症フレンドリー社会の確立に関するAHWINウェビナー
- 9月3日：国際防災・人道支援協議会（DRA）代表者会議（オンライン）
- 11月1日：神戸市シルバーカレッジでの講演（オンライン）
- 11月13日：神戸市薬剤師会開催セミナー
- 12月1日 泉佐野市議会議員研修会「新型コロナウイルス感染症対応における地方自治体の対策と挑戦」
- 12月2日：第1回災害医療に係るASEAN 学術会議（オンライン）
- 12月21日：神戸市保健所定例会

2022 年

- 2月2日：神戸市看護大学でオンライン授業
- 3月26日：日本赤十字看護大学附属災害救護研究所キックオフセミナーで講演

WHO感染症流行情報の翻訳 WKCはグローバルWHO感染症流行情報（DONs）の翻訳を行いました。翻訳作業は、新型コロナウイルス対策に関する兵庫県専門委員会による技術的な支援を受けて、神戸・大阪・関西空港の各検疫所、並びに成田空港検疫所と連携して行っています。2019年末までに38件のDONsを翻訳し、厚生労働省のウェブサイトに掲載されました（www.forth.go.jp）。2020年以降、DONsの翻訳はCOVID-19に関するテクニカルガイダンスの翻訳に移行されました。

COVID-19に関するWHOのテクニカルガイダンスと公開情報の翻訳 地方自治体の政策立案者や市民のニーズに応えるため、WKCは2020年2月以降、COVID-19に関する重要で正確な情報を提供してまいりました。特設ページをWKCのウェブサイト開設し、その中で、世界の状況についてのWHOのレポート、WHOのガイダンス、一般向け情報を日本語に翻訳して掲載しています。

- WHOによる世界の状況についてのレポート：世界の感染状況を毎日更新（ダッシュボード等），
https://extranet.who.int/kobe_centre/ja/covid/），
- WHOによる専門家・関係者向けガイダンス（臨床管理ガイドライン、公衆衛生対応ガイダンス等），
https://extranet.who.int/kobe_centre/ja/covid/covid-technical/
- 3) 一般向け情報資料（例、インフォグラフィック、教育的ビデオ、https://extranet.who.int/kobe_centre/ja/covid/covid-public/），
- Q&A (https://extranet.who.int/kobe_centre/ja/covid/qa)

統計データと情報は定期的に更新しており、この情報は地域や全国のステークホルダーに共有され、数千人のフォロワーに向けてツイートもされます。情報の翻訳はウェブサイトやツイッター、並びにWKCのパートナーやフォロワーによって拡散されています。また、WKCは兵庫県や神戸市の関連委員会に向けて、情報の共有と技術的アドバイスの提供に努めています。パンデミックが発生して以来、WKCのスタッフ8名が関連ガイダンスや公開情報の特定、翻訳とその正確性のチェック、ウェブサイトやツイッターを介した情報の広報と普及に時間を費やして取り組んでいます。2021～22年には230件以上の新規および更新情報が翻訳・発信されました（2020年は140件）。

翻訳されたWHOテクニカルガイダンスの文書、並びに一般向け情報文書のリストは付属資料1に記載されています。（付属資料1、日本語に翻訳され、公開されたWHOのCOVID-19関連文書のリスト）。

地元におけるコミュニケーションの強化 WKCと神戸グループは定期的なコミュニケーションの強化に取り組んできました。WKCと神戸グループは2022年7月に年に一度の事業検討会議を書面交換の形でやり、研究の進捗状況、今後の研究計画、地元との連携について意見を交わしました。また、WKCとJCC事務局は定期的に会合を開き、業務の進捗状況をレビューしてきました。定例会議では、さまざまな議題の中から、地域貢献活動やコミュニケーションの強化に焦点を当てて検討しています。さらに、神戸グループは毎年11月に開催されるWKC諮問委員会（ACWKC）でも重要な役割を果たしています。2021-2022年、WKCと神戸グループは両者の職員の安全と健康を確保するため、書面形式およびオンライン形式の会議を開始しました。感染状況が許され次第、対面の会合を再開する予定です。

今後の計画案（2022年から2023年）と現在の活動

目標1：国際協力を促進する

共同研究 WKCの研究計画で示された全ての研究テーマに関して、関西を拠点とする研究機関と海外の研究者との連携を強化する取り組みを今後も拡大していきます。現在、15を超える地元の学術組織と、直接の共同研究や会議、技術的イベントで連携しています。具体的には、兵庫県立大学、姫路大学、関西福祉大学、兵庫県災害医療センター、兵庫県こころのケアセンター、神戸大学、神戸市看護大学、神戸学院大学、甲南大学、京都大学、滋賀医科大学、大阪大学、四天王寺大学、摂南大学、奈良学園大学です。

WHO災害・健康危機管理（Health EDRM）に関するグローバルリサーチネットワーク（TPRN）の事務局 地方、全国、および世界のHealth-EDRMの専門家との共同研究を促進し、現在の活動を進めていきます。2022～23年は、WHO神戸センターはコンサルタントの協力を得て、Health EDRMのナレッジハブとして引き続きウェブページを充実させてまいります。ナレッジハブではTPRNメンバーや一般市民に共有できる最新の研究とエビデンスのデータベースを提供し、より良いエビデンスに基づく政策につ

ながら効果的な知識の統合と普及を図ってまいります。また、講義やウェビナーのYouTube動画やポッドキャストなどのマルチメディアを活用した情報発信も展開してまいります。

目標2: WKCの研究活動情報の広報に努める

WKCは今後も最低年三回のWKCフォーラムを開催する予定です。2022年から2023年の開催予定は次の通りです。

- 11月19日:「急速な高齢化に対する医療システムの対応:東南アジアと我が国の教訓」—このWKCフォーラムは第37回日本国際保健医療学会学術大会の公式プログラムの一環として開催されます。

これらに加え、**ウェブサイトとソーシャルメディア**を利用して広報活動を引き続き強化し、地域社会と世界の両方の読者の多様なニーズの理解に努めます。スマートフォンからのサイト・アクセスが多いことを踏まえ、ユーザーインターフェースを改善し、ツイッターやYouTubeでの投稿を増やしていきます。

各研究プロジェクトの広報計画 WKCは広報の専門家と連携して、各研究プロジェクトそれぞれに適した広報手段を採用しています。具体的には、プロジェクト開始時と終了時にプロジェクトの概要を作成、ソーシャルメディアやウェブサイトへの研究結果に関するメッセージの掲載、共同研究者に関するフィーチャー・ストーリーのビデオ・インタビューやソーシャルメディア・クリッピングへの掲載等です。こうした広報計画では、各研究プロジェクトに対して最小限の一連の活動（プロジェクト概要、ニュース記事、研究結果のツイート）、さらには特定の業務を強調するためにWKCが実施できる選択的要素（ツイッターストーム・キャンペーン、ウェビナー、メディアへの発信など）を活用します。2022-2023年には、各プロジェクト・サイクルに広報計画を組み入れて、可視化と普及の強化に努めます。

目標3: 地域社会で健康の意識向上に努める

前述リストで示したような、**兵庫県並びに神戸市の技術委員会や会議に参加することにより**、今後も地域社会との関係を強化していきます。また、相互理解と支援を確実にするため、今後も神戸グループとのコミュニケーションの向上に努めます。

COVID-19に関するWHOガイダンスと公開情報の翻訳・広報の継続 テクニカルガイダンスおよび一般向けガイダンスの翻訳、ソーシャルメディアやメディアへの発信など、今後もCOVID-19に関する情報の翻訳と普及に向けて具体的に取り組んでいきます。そのために、WKCはこの業務を遂行する能力を拡大するよう、さらに努めます。翻訳が必要となる重要なCOVID-19関連ガイダンスを選別し、翻訳と広報業務を調整することで業務を効率化します。また、兵庫県や神戸市と連携して、COVID-19に関する情報を効率的に地元で広報し、情報共有を促進するよう努めます。

学校での講演 2022-2023年も引き続き、地元の小中学校、高等学校、大学からの個別要請に応じて、学校での講演を続けます。WHO神戸センターでは、時と場合により対面講義を再開することもあります。ほとんどはウェビナーの形でオンライン講義を行っていく予定です。

地域でのコミュニケーションの強化 WKCは定期的に地元との連携強化に関する進捗状況の確認と新しい機会の検討を行っています。このプロセスを通して、私たちは神戸グループおよび他のステークホルダーと連携して共通の関心分野を特定していきます。こうした話し合いを通して、地元における連携強化活動の拡大を図っていく予定です。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関するWHO公式情報翻訳事業一覧

2022年10月6日

WHO本部が公開する情報の内、日本に関連が深い関係者向け・一般向け情報の翻訳に取り組んでいます。本リストは不定期に随時更新され、新しく翻訳が公開された文書は黄色でハイライトされています。また、更新によりアーカイブされた文書は灰色ハイライトで記しております。

準備中の書類については、リスト上のタイトルを英文のままご報告しております。

[合計]

翻訳・公開数	計	281	翻訳・作業本数	計	287
2020年公開	140	}	公開中	248	}
2021年公開	105		公開終了・保存済	33	
2022年公開	36		準備中	6	

[行政、公衆衛生、その他の関係者向け文書]

翻訳・公開数	計	65	翻訳・作業本数	計	67
2020年公開	53	}	公開中	54	}
2021年公開	10		公開終了・保存済	11	
2022年公開	2		準備中	2	

[臨床関連、医療施設、医療従事者向け文書]

翻訳・公開数	計	40	翻訳・作業本数	計	42
2020年公開	27	}	公開中	30	}
2021年公開	7		公開終了・保存済	10	
2022年公開	6		準備中	2	

[一般向け情報（インフォグラフィックスや動画など）と文書]

翻訳・公開数	計	127	翻訳・作業本数	計	127
2020年公開	50	}	公開中	127	}
2021年公開	62		公開終了・保存済	0	
2022年公開	15		準備中	0	

[Q&A およびCOVID-19に関する基本情報]

翻訳・公開数	計	49	翻訳・作業本数	計	51
2020年公開	10	}	公開中	37	}
2021年公開	26		公開終了・保存済	12	
2022年公開	13		準備中	2	

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）WHO公式情報特設ページ：

https://extranet.who.int/kobe_centre/ja/covid

#	文書 番号	タイトル(日本語訳)	タイトル(英文オリジナル)	更新 版 Ver.	英文公開日	日本語版 公 開年	公開状態
1	G01	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のヒトでの感染 についてのグローバル・サーベ イランス - 暫定ガイダンス	Global surveillance for COVID-19 caused by human infection with COVID-19 virus - Interim guidance	0 (to G28)	20/03/2020	2020	Archived
2	G02	リスクコミュニケーションとコ ミュニティ参画に関するガイ ダンス	Risk communication and community engagement (RCCE) readiness and response to the 2019 novel coronavirus (2019-nCoV) - Interim guidance [v2]	0	26/01/2020	2020	Archived
3	G02	コミュニティで備える10のス テップ	10 steps to community readiness	1	18/02/2021	2021	Published
4	G02		WHO COVID-19 policy brief: Building trust through risk communication and community engagement	2	14/09/2022	Preparing	Preparing
5	G03	国際赤十字連 盟、UNICEF、WHO 合同 COVID-19 に関する社会的ス ティグマの防止と対応のガイド	Social Stigma associated with COVID-19: A guide to preventing and addressing social stigma		24/02/2020	2020	Published
6	G04	子供の保護と安全な学校運営 のためのガイダンス: 国際赤十 字連盟、ユニ セフ、WHO共同声明	COVID-19: IFRC, UNICEF and WHO issue guidance to protect children and support safe school operations		10/03/2020	2020	Published
7	G05	大勢の人が集まるイベント等 の開催に関するガイダンス	Key planning recommendations for Mass Gatherings in the context of the current COVID-19 outbreak - Interim guidance		29/05/2020	2020	Published
8	G06	新型コロナウイルス感染症 (COVID- 19) に関するWHO-中国合同ミ ッション報告書	Report of the WHO- China Joint Mission on Coronavirus Disease 2019 (COVID-19)	0	28/02/2020	2020	Archived

9w	G06	WHOが招集したSARS-CoV-2の起源に関する世界的調査研究:中国のパートWHOと中国の共同調査研究チームの報告 [概要]	WHO-convened global study of origins of SARS-CoV-2: China Part Joint WHO-China study: 14 January - 10 February 2021, COVID-19: Animal-human interface and food safety	1	30/03/2021	2021	Published
10	G07	国際渡航に関する推奨事項	Updated WHO recommendations for international traffic in relation to COVID-19 outbreak		29/02/2020	2020	Archived
11	G07	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に配慮した国際渡航: リスクに基づくアプローチの実施に関する検討 事項-暫定ガイドランス (キーポイント)	Technical considerations for implementing a risk-based approach to international travel in the context of COVID-19 - Interim guidance (*Annex to: Policy considerations for implementing a risk-based		02/07/2021	2021	Published
12	G08	地域でのCOVID-19拡大への対応	Responding to community spread of COVID-19		07/03/2020	2020	Published
13	G09	COVID-19の症例およびクラスター調査における検討事項	Considerations in the investigation of cases and clusters of COVID-19	0	02/04/2020	2020	Archived
14	G10	COVID-19の症例およびクラスター調査における検討事項	Considerations in the investigation of cases and clusters of COVID-19	1	22/10/2020	2020	Published
15	G11	国際赤十字連盟、UNICEF、WHO 合同学校でのCOVID-19の感染予防と制御に関する重要な伝達事項と対応	Key messages and actions for COVID-19 prevention and control in schools		20/03/2020	2020	Published
16	G14	COVID-19への対応の要としての人権への取り組み	Addressing Human Rights as Key to the COVID-19 Response		21/04/2020	2020	Published
17	G16	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の封じ込めに関連する個人の隔離に関する検討事項	Considerations for quarantine of individuals in the context of containment for coronavirus disease (COVID-19)		19/03/2020	2020	Published

18	G16	宿泊施設におけるCOVID-19管理についての実践的検討事項	Operational considerations for COVID-19 management in the accommodation sector	0	31/03/2020	2020	Archived
19	G16	ホテル、宿泊施設におけるCOVID-19管理に関するガイダンス	COVID-19 management in hotels and other entities of the accommodation sector	1	25/08/2020	2020	Published
20	G17	入国地点（国際空港、港、駅）で具合が悪い旅行者の管理	Management of ill travellers at points of entry (international airports, seaports, and ground crossings) in the context of COVID-19	G17/18の補足改訂	19/03/2020	2020	Published
21	G18	航空機内でのCOVID-19の症例・流行の管理についての実践的検討事項	Operational considerations for managing COVID-19 cases or outbreak in aviation	G17/18の補足改訂	18/03/2020	2020	Published
22	G20	COVID-19と食品安全：食品事業に関するガイダンス	COVID-19 and food safety: Guidance for food businesses		07/04/2020	2020	Published
23	G22	COVID-19原因ウイルスの伝播を予防するための手指衛生改善についての加盟国への推奨事項	Recommendations to Member States to improve hand hygiene practices to help prevent the transmission of the COVID-19 virus		01/04/2020	2020	Published
24	G23	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への公衆衛生的・社会的対策の調整に関する検討事項	Considerations in adjusting public health and social measures in the context of COVID-19	0	16/04/2020	2020	Archived
25	G23	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への公衆衛生的・社会的対策の実施と調整に関する検討事項	Considerations for implementing and adjusting public health and social measures in the context of COVID-19	1	04/11/2020	2020	Archived
26	G23	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への公衆衛生的・社会的対策の実施と調整に関する検討事項	Considerations for implementing and adjusting public health and social measures in the context of COVID-19	2	14/06/2021	2021	Published

27	G24	COVID-19の「免疫パスポート」	“Immunity passports” in the context of COVID-19		24/04/2020	2020	Published
28	G25	COVID-19と食品安全：国の食品安全管理システムに対して責任を負う所管官庁のためのガイダンス	COVID-19 and Food Safety: Guidance for competent authorities responsible for national food safety control systems		22/04/2020	2020	Published
29	G26	都市部におけるCOVID-19への備えの強化：地方自治体への暫定ガイダンス	Strengthening Preparedness for COVID-19 in Cities and Urban Settings		28/04/2020	2020	Published
30	G27	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）と喫煙に関するWHO声明	WHO statement: Tobacco use and COVID-19		11/05/2020	2020	Published
31	G28	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のサーベイランス戦略 暫定ガイダンス	Surveillance strategies for COVID-19 human infection	0	10/05/2020	2020	Archived
32	G28	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の公衆衛生サーベイランス 暫定ガイダンス	Public health surveillance for COVID-19: interim guidance	1	16/12/2020	2021	Published
33	G28	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の公衆衛生サーベイランス 暫定ガイダンス キーポイント	Public health surveillance for COVID-19: interim guidance	2	22/07/2022	2022	Published
34	G29	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の接触者追跡	Contact tracing in the context of COVID-19	0	10/05/2020	2020	Published
35	G29	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の接触者追跡 キーポイント	Contact tracing in the context of COVID-19	1	01/02/2021	2021	Published
36	G29	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の接触者追跡と隔離 キーポイント	Contact tracing and quarantine in the context of COVID-19	2	06/07/2022	2022	Published

37	G30	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への学校関連の公衆衛生的対策に関する検討事項 「新型コロナウイルス感染症 (COVID-	Considerations for school-related public health measures in the context of COVID-19 (*Annex to Considerations in adjusting public health and social	0	10/05/2020	2020	Archived
38	G30	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への学校関連の公衆衛生的対策に関する検討事項 「新型コロナウイルス感染症 (COVID-	Considerations for school-related public health measures in the context of COVID-19 (*Annex to Considerations in adjusting public health and social	1	14/09/2020	2020	Published
39	G33	職場における新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への公衆衛生的・社会的対策 「新型コロナウイルス感染症 (COVID-	Considerations for school-related public health measures in the context of COVID-19 (*Annex to Considerations in adjusting public health and social	0	10/05/2020	2020	Archived
40	G33	職場での新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の予防と緩和のために ポリシーブリーフ	Preventing and mitigating COVID-19 at work Policy Brief	1	19/05/2021	2021	Published
41	G34	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への公衆衛生的・社会的対策調整の公衆衛生学的基準 「新型コロナウイルス感染症 (COVID-	Public health criteria to adjust public health and social measures in the context of COVID-19 (*Annex to Considerations in adjusting public health and social		12/05/2020	2020	Published
42	G35	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) を考慮した清掃と消毒	Cleaning and disinfection of environmental surfaces in the context of COVID-19		15/05/2020	2020	Published
43	G36	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への公衆衛生的・社会的対策の概要	Overview of Public Health and Social Measures in the context of COVID-19		18/05/2020	2020	Published

44	G37	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に配慮した大規模予防接種キャンペーンに関する意思決定の枠組み	Framework for decision-making: implementation of mass vaccination campaigns in the context of COVID-19	0	22/05/2020	2020	Published
45	G37		WHO policy brief: Reaching COVID-19 vaccination targets	1	14/09/2022	Preparing	Preparing
46	G38	国境等での感染制御	Controlling the spread of COVID-19 at ground crossings		20/05/2020	2020	Published
47	G39	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 接触者追跡のためのデジタルツール 暫定ガイドライン「新型コロナウイルス感染症 (COVID-	Digital tools for COVID-19 contact tracing		02/06/2020	2020	Published
48	G40	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) と女性への暴力 保健分野・システムに何ができるか	COVID-19 and violence against women, What the health sector/system can do		07/04/2020	2020	Published
49	G42	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に配慮したマ スギャザリングにおける検討 事項	Considerations for mass gatherings in the context of COVID-19: annex: considerations in adjusting public health and social measures in the context of COVID-19		14/05/2020	2020	Published
50	G43	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) とジェンダー	Gender and COVID-19		14/05/2020	2020	Published
51	G44	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行下における 予防接種活動の基本原則	Guiding principles for immunization activities during the COVID-19 pandemic		26/03/2020	2020	Published
52	G45	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に関するICAO (国際民間航空機関)・WHO共 同声明	Joint ICAO-WHO Statement on COVID-19		11/03/2020	2020	Published
53	G46	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) と喫煙	Smoking and COVID-19		30/06/2020	2020	Published
54	G47	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の接触者追跡に おけるデジタルテクノロジー利 用についての倫理的検 討事項	Ethical considerations to guide the use of digital proximity tracking technologies for COVID-19 contact tracing		28/05/2020	2020	Published

55	G48	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) と授乳	Breastfeeding and COVID-19		23/06/2020	2020	Published
56	G49	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) パンデミック下における自然災害への備え 保健セクターからの提言	Preparedness for cyclones, tropical storms, tornadoes, floods and earthquakes during the COVID-19 pandemic Health advisory		29/04/2020	2020	Published
57	G50	新型コロナウイルスの伝播について: 最新の知見の予防策への示唆 (科学的事項に関する短い概説)	Transmission of SARS-CoV-2: implications for infection prevention precautions (Scientific Brief)		09/07/2020	2020	Published
58	G51	マスギャザリングにおける新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のWHOリスクアセスメントツール: 一般的なイベント	WHO Mass gathering COVID-19 risk assessment tool - Generic events		10/07/2020	2020	Published
59	G52	マスギャザリングにおける新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のWHOリスクアセスメント、リスク軽減チェックリストの使い方	How to use WHO risk assessment and mitigation checklist for mass gatherings in the context of COVID-19		13/07/2020	2020	Published
60	G53	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) パンデミックとその先への備えを強化するための都市における実践的行動	Practical actions in cities to strengthen preparedness for the COVID-19 pandemic and beyond		17/07/2020	2020	Published
61	G54	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に関するWHOガイドランスの使い方	A guide to WHO's guidance on COVID-19		17/07/2020	2020	Published
62	G55	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に対する水と衛生、廃棄物処理について	Water, sanitation, hygiene, and waste management for SARS-CoV-2, the virus that causes COVID-19		29/07/2020	2020	Published
63	G56	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) パンデミックに際した子供、女性、高齢者への暴力への対処: 重要なアクション	Addressing violence against children, women and older people during the covid-19 pandemic: Key actions		17/06/2020	2020	Published

64	G57	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行下におけるインフルエンザへの備え	Readiness for influenza during the COVID-19 pandemic		06/11/2020	2020	Published
65	G58	提言につながる科学的根拠：航空業界における新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 感染リスクの最小化について	Evidence to recommendations: COVID-19 mitigation in the aviation sector		27/11/2020	2021	Published
66	G59	若者とCOVID-19 — 安全な行動を奨励するための行動上の検討事項 ポリシーブリーフ	Young people and COVID-19: behavioural considerations for promoting safe behaviours - Policy brief		09/06/2021	2021	Published
67	G60	妊娠中および授乳中の女性の新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) ワクチン接種について:WHOによる暫定的な推奨事項の更新 [WHOアフリカ地域Webinar資料]	Update on WHO Interim recommendations on COVID-19 vaccination of pregnant and lactating women		02/06/2021	2021	Published

#	文書 番号	タイトル(日本語訳)	タイトル(英文オリジナル)	更新版 Ver.	英文公開日	日本語版公 開年	公開状態
1	H01	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 感染が疑われる 場合の重症急性性呼吸器感 染症 (SARI) の臨床管理	Clinical management of severe acute respiratory infection when novel coronavirus (nCoV) infection is suspected - Interim guidance	0	13/03/2020	2020	Archived
2	H01	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の臨床管理 暫 定ガイダンス	Clinical management of COVID-19: Interim guidance	1	27/05/2020	2021	Published
3	H01	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の臨床管理 暫定 ガイドライン(随時更新) キー ポイント	COVID-19 Clinical management: living guidance	2	23/11/2021	2022	Published
4	H01	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の臨床管理 暫定 ガイドライン(随時更新) キー ポイント	COVID-19 Clinical management: living guidance	3	23/06/2022	2022	Published
5	H01	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の臨床管理 ポリ シー・ブリーフ	WHO Policy Brief: Clinical management of COVID-19	4	14/09/2022	Preparing	Preparing
6	H01	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の治療 暫定ガイ ドライン(随時更新)	Therapeutics and COVID-19: Living Guideine	0	20/11/2020	2021	Published
7	H01	新型コロナウイルス感染症 (COVID- 19) の治療 暫定ガイドライン(随 時更新)	Therapeutics and COVID-19: living guideline	1	31/03/2021	2021	Published
8	H01	新型コロナウイルス感染症 (COVID- 19) の治療 暫定ガイドライン(随 時更新)	Therapeutics and COVID-19: living guideline	2	22/04/2022	2022	Published
9	H01	新型コロナウイルス感染症 (COVID- 19) の治療 暫定ガイドライン(随 時更新)	Therapeutics and COVID-19: living guideline	3	14/07/2022	2022	Published
10	H02	軽症の新型コロナウイルス (COVID- 19) 患者の在宅ケアと接触者 の管理に関する暫定ガイダ ンス	Home care for patients with COVID-19 presenting with mild symptoms and management of their contacts - Interim guidance	0	17/03/2020	2020	Archived

11	H02	新型コロナウイルス (COVID-19) 患者の在宅ケアと接触者の管理	Home care for patients with suspected or confirmed COVID-19 and management of their contacts	1	12/08/2020	2020	Published
12	H03	個人防護具 (PPE) の適正利用に関するガイダンス	Rational use of personal protective equipment (PPE) for coronavirus disease (COVID-19) - Interim guidance	0	19/03/2020	2020	Archived
13	H03	COVID-19に対する個人防護具の合理的な使用と深刻な不足時の検討事項	Rational use of personal protective equipment for coronavirus disease (COVID-19) and considerations during severe shortages	1	06/04/2020	2020	Archived
14	H03	COVID-19に対する個人防護具の合理的な使用と深刻な不足時の検討事項 改訂版 抜粋: キーポイント・表	Rational use of personal protective equipment for coronavirus disease (COVID-19) and considerations during severe shortages	2	23/12/2020	2021	Published
15	H04	新型コロナウイルス (COVID-19) に関わるコミュニティ (地域)、在宅ケア、および医療現場でのマスク使用に関するアドバイス	Advice on the use of masks in the community, during home care, and in health care settings in the context of COVID-19	0	19/03/2020	2020	Archived
16	H04	新型コロナウイルス (COVID-19) に関わるマスク使用に関するアドバイス	Advice on the use of masks in the context of COVID-19	1	06/04/2020	2020	Archived
17	H04	新型コロナウイルス (COVID-19) に関わるマスク使用に関するアドバイス	Advice on the use of masks in the context of COVID-19	2	05/06/2020	2020	Archived
18	H04	新型コロナウイルス (COVID-19) に関わるマスク使用 改訂版キーポイント	Mask use in the context of COVID-19	3	01/12/2020	2021	Published
19	H06	COVID-19アウトブレイク中のメンタルヘルスと心理社会的影響に関する検討事項 - 暫定ガイダンス	Mental health and psychosocial considerations during the COVID-19 outbreak - Interim guidance		18/03/2020	2020	Published

20	H07	労働安全衛生に関する医療従事者の権利、役割、責任に関するガイダンス	Coronavirus disease (COVID-19) outbreak: rights, roles and responsibilities of health workers, including key considerations for occupational safety and health		19/03/2020	2020	Published
21	H08	COVID-19の臨床検査方針に関する推奨事項	Laboratory testing strategy recommendations for COVID-19		21/03/2020	2020	Published
22	H09	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)に関連した検査室のバイオセーフティに関するガイダンス	Laboratory biosafety guidance related to coronavirus disease (COVID-19)	0	19/03/2020	2020	Archived
23	H09	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)に関連した検査室のバイオセーフティに関するガイダンス	Laboratory biosafety guidance related to coronavirus disease (COVID-19)	1	28/01/2021	2021	Published
24	H10	医療施設やコミュニティにおけるCOVID-19陽性患者の管理の実践に関する検討事項	Operational considerations for case management of COVID-19 in health facility and community		18/03/2020	2020	Published
25	H11	新型コロナウイルス感染症が疑われた場合の医療ケアにおける感染予防と制御	Infection prevention and control during health care when novel coronavirus (nCoV) infection is suspected	0	19/03/2020	2020	Archived
26	H11	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)が疑われた、あるいは確定した場合の医療ケアにおける感染予防と制御	Infection prevention and control during health care when coronavirus disease (COVID-19) is suspected or confirmed	1	29/06/2020	2020	Published
27	H11	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)が疑われた、あるいは確定した場合の医療ケアにおける感染予防と制御 暫定ガイダンス 付録資料 キーポイント	Annex to Infection prevention and control during health care when coronavirus disease (COVID-19) is suspected or confirmed, Interim guidance	2	01/10/2021	2022	Newly
28	H11	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)の感染予防と制御 暫定ガイドライン(随時更新) キーポイント	Infection prevention and control in the context of coronavirus disease (COVID-19): A living guideline	2	25/04/2022	2022	Newly

29	H11		WHO Policy Brief: Maintaining infection prevention and control measures for COVID-19 in health care facilities	Published	25/04/2022	2022	Newly
30	H12	必須医療資源確保の計画に関するガイダンス	Coronavirus disease (COVID-19) technical guidance: Essential resource planning (--> WHO surge calculators Essential supply list / title change on 27 Apr)	3	14/09/2022	Preparing	Preparing
31	H13	長期療養型施設におけるCOVID-19感染予防と制御に関するガイダンス	Infection prevention and control guidance for long-term care facilities in the context of COVID-19		12/04/2020	2020	Published
32	H13	長期療養型施設におけるCOVID-19感染予防と制御に関するガイダンス 改訂版キーポイント	Infection prevention and control guidance for long-term care facilities in the context of COVID-19	0	21/03/2020	2020	Archived
33	H14	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の患者への非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) の使用について	The use of non-steroidal anti-inflammatory drugs (NSAIDs) in patients with COVID-19 Scientific Brief		19/04/2020	2020	Published
34	H15	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行下のコミュニティにおける子どものマスク使用に関するアドバイス/UNICEF / WHO	Advice on the use of masks for children in the community in the context of COVID-19 (Annex to the Advice on the use of masks in the context of COVID-19)		21/08/2020	2020	Published
35	H18	COVID-19 流行下における医療従事者の曝露に関するリスク評価と管理	Risk assessment and management of exposure of health care workers in the context of COVID-19		19/03/2020	2020	Published
36	H19	重症急性呼吸器感染症の臨床ケア - ツールキット	Clinical care of severe acute respiratory infections - Tool kit		11/04/2020	2020	Published
37	H20	COVID-19 の治験に関するWHO研究開発計画	COVID 19 Landscape of experimental treatments		28/04/2020	2020	Published
38	H21	保健医療施設のためのCOVID-19リスクコミュニケーション・パッケージ	The COVID-19 Risk Communication Package For Healthcare Facilities (WPRO)		10/03/2020	2020	Published
39	H23	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 感染者の隔離解除基準	Criteria for releasing COVID-19 patients from isolation		17/06/2020	2020	Published

40	H24	介護サービスにおける新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の予防と管理 - 11の政策目標 (第二部より抜粋)	Preventing and managing COVID-19 across long-term care services: Policy brief - Eleven policy objectives (extracted from part 2)		24/07/2020	2020	Published
41	H24	介護サービスにおける新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の予防と管理 - エグゼクティブサマリー	Preventing and managing COVID-19 across long-term care services: Policy brief - Executive summary		24/07/2020	2020	Published
42	H24	介護サービスにおける新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の予防と管理 - ポリシー・ブリーフ (全文)	Preventing and managing COVID-19 across long-term care services: Policy brief - Key actions and Country Examples (extracted from part 2)		24/07/2020	2020	Published

#	文書 番号	タイトル(日本語訳)	タイトル(英文オリジナル)	更新 版 Ver.	英文公開日	日本語 版公 開年	公開状態
1	P01	家の中でアクティブに過ごそう (10インフォグラフィクス)	10 infographics "Be active at home during #COVID19 outbreak"	N/A		2020	Published
2	P02	コロナウイルスに備えよう (7インフォグラフィクス)	7 infographics "be ready for coronavirus"	N/A		2020	Published
3	P03	コロナウイルス ウイルスの 拡散を防ぐ7つのポイント(ア ニメーション)	Animation "coronavirus 7 steps to prevent the spread of the virus"	N/A		2020	Published
4	P04	COVID-19からどのように自分 を守るか (アニメーション)	Animation "How to protect yourself against COVID-19"	N/A		2020	Published
5	P05	WHOに聞こう - 握手	Ask WHO - Hand Shaking	N/A		2020	Published
6	P06	WHOに聞こう - 安全な挨拶	Ask WHO - Safe Greetings	N/A		2020	Published
7	P07	WHOに聞こう - 手袋	Ask WHO - Wearing Gloves	N/A		2020	Published
8	P08	流行下におけるストレス対処	Coping with stress during the 2019-nCoV outbreak	N/A		2020	Published
9	P10	職場でCOVID-19に備える	Getting workplace ready	N/A		2020	Published
10	P11	迷信や不安に対するアドバイ ス 1	Myth-busters 1	N/A		2020	Published
11	P11	迷信や不安に対するアドバイ ス 2 (6 infographics)	Myth-busters 2 (9 items --> 6 items)	N/A		2020	Published
12	P11	迷信や不安に対するアドバイ ス 3	Myth-busters 3 (5 items)	N/A		2020	Published
13	P11	迷信や不安に対するアドバイ ス - マスク	Mythbusters on mask	N/A		2020	Published
14	P11	迷信や不安に対するアドバイ ス - マスクと運動	Mythbuster (Mask and exercise)	N/A		2020	Published
15	P11	迷信や不安に対するアドバイ ス - デキサメタゾンの汎用性 に関する疑 問を解決する	Mythbuster (beat your doubts Is dexamethasone a treatment for all COVID-19 patients?)	N/A		2020	Published
16	P12	いつ、どのようにマスクを使う のか	When and how to use masks	N/A		2020	Published

17	P13	職場でのCOVID-19感染予防対策	Getting your workplace ready for COVID-19	N/A	19/03/2020	2020	Published
18	P18	医療用マスクの安全な使い方	1_DOS and DONT for masks	N/A		2020	Published
19	P18	COVID-19アウトブレイク中の移動	2_COVID-19_Moving_Around_transport	N/A		2020	Published
20	P18	物理的距離の確保は、社会的な孤立とは異なります	3_COVID-19_Distancing	N/A		2020	Published
21	P18	COVID-19事実を知りましょう（白黒）	4_Transmission poster v02 - black and white	N/A		2020	Published
22	P18	COVID-19と喫煙	5_Tobacco and COVID-19_addon	N/A		2020	Published
23	P19	在宅勤務時に健康であるために	Script Healthy at home	N/A		2020	Published
24	P20	低リスクは無リスクではない	Low Risk isn't No Risk	N/A		2020	Published
25	P23	物理的距離のとり方	1- Physical distancing (WPRO) (19 items)	N/A		2020	Published
26	P23	食品や買い物についてのアドバイス	2- Beat your doubts (WHO)	N/A		2020	Published
27	P24	職場や自宅で勤務中にできるCOVID-19予防	Preventing COVID-19 in your workplace or while teleworking	N/A		2020	Published
28	P25	妊娠中・出産後の方へのアドバイス	Pregnancy and COVID19 (with support of UNFPA Japan)	N/A		2020	Published
29	P26	メンタルヘルスとCOVID-19	Mental Health & COVID-19 (with support of UNIC Japan)	N/A		2020	Published
30	P27	COVID-19蔓延防止に向けた科学の進歩と私たちの役割	The evolution of science and our role in preventing the spread of COVID-19	N/A		2020	Published
31	P28	布マスクの使い方/医療用マスクの使い方	How to wear a fabric mask/How to wear a medical mask	N/A		2020	Published
32	P29	布マスクの安全な使い方 すべきこと&してはいけないこと	How to wear a non-medical fabric mask safely Do's & Don'ts	N/A		2020	Published
33	P30	親として子どものためにできること	COVID-19 Parenting - 14 infographics	N/A	08/06/2020	2020	Published
34	P31	COVID-19への対応における民間セクターへのお願い	Asks' to the private sector in the response to COVID-19	N/A	11/06/2020	2020	Published
35	P33	新しい生活様式へのアドバイス	Reference New normal A (WPRO)	N/A		2020	Published
36	P36	家庭用の布マスクの安全な着用方法	Fabric mask animation script	N/A		2020	Published
37	P38	インフォデミックから身を守る	How to protect yourself in the infodemic	N/A		2020	Published
38	P39	スティグマと差別	Stigma Discrimination	N/A		2020	Published
39	P41	渡航に関するアドバイス	Travel advice (three documents)	N/A		2020	Published

40	P42	感染の連鎖を断ち切るには	How to break the chains of transmission	N/A		2020	Published
41	P43	新型コロナウイルス感染症の接触者追跡とは？	How does contact tracing work?	N/A		2020	Published
42	P44	子ども向け布マスクの正しいつけ方	How children can wear fabric masks	N/A		2020	Published
43	P45	概観効果（オーバービュー・エフェクト）	Act together: The overview effect	N/A		2020	Published
44	P46	ACTアクセラレーターとは？	What is ACT	N/A		2020	Published
45	P47	誤情報・迷信に注意：ビタミンとミネラルのサプリメントでは、COVID-19を治すことはできません	Mythbuster on Vitamin D and supplements	N/A		2020	Published
46	P48	5分でわかるサイエンス：集団免疫とは？	Science in 5 - Herd Immunity	N/A		2020	Published
47	P49	5分でわかるサイエンス：ワクチンについて	Science in 5: Vaccines	N/A		2020	Published
48	P50	5分でわかるサイエンス：安全な年末年始の過ごし方	Science in 5: Safe during celebrations	N/A		2020	Published
49	P51	5分でわかるサイエンス：インフルエンザと新型コロナウイルス感染症	Science in 5: Flu & COVID	N/A		2020	Published
50	P52	新型コロナウイルス感染症のリスクを減らす3つの要素	Risky behaviour	N/A		2020	Published
51	P53	5分でわかるサイエンス：迷信VS科学	Science in 5: Vaccines	N/A		2021	Published
52	P54	前例のない1年：WHOのCOVID-19への対応	A year without precedent: WHO's COVID-19 response	N/A	23/12/2020	2021	Published
53	P55	5分でわかるサイエンス：血清学的調査とは？	Science in 5: What are serological surveys?	N/A		2021	Published
54	P56	5分でわかるサイエンス：ワクチンの治験について	Science in 5: Vaccines	N/A		2021	Published
55	P57	5分でわかるサイエンス：迷信VS科学 その2	Science in 5: Vaccines	N/A		2021	Published
56	P58	COVID-19ワクチンの専門的報道におけるアドバイス	Tips for professional reporting on COVID-19 vaccines	N/A	07/12/2020	2021	Published
57	P59	5分でわかるサイエンス：大気汚染と新型コロナウイルス感染症	Science in 5: Air pollution	N/A		2021	Published
58	P60	5分でわかるサイエンス：ワクチンの供給について	Science in 5: Vaccine distribution	N/A		2021	Published
59	P61	5分でわかるサイエンス：ワクチンはどのように作用するのか？	Science in 5: How vaccines work	N/A		2021	Published
60	P62	5分でわかるサイエンス：換気とCOVID-19	Science in 5: Ventilation and COVID-19	N/A		2021	Published
61	P63	5分でわかるサイエンス：変異株とワクチンについて	Science in 5: Variants and vaccine	N/A		2021	Published
62	P64	5分でわかるサイエンス：ワクチンの承認過程について	Science in 5: Vaccine approval	N/A		2021	Published

63	P65	5分でわかるサイエンス：抗生物質と新型コロナウイルス感染症	Science in 5: Antibiotics & COVID-19	N/A		2021	Published
64	P66	コミュニティで備える10のステップ	10 steps to community readiness	N/A		2021	Published
65	P67	できることは全てやろう	Do it All	N/A		2021	Published
66	P68	5分でわかるサイエンス：ワクチンの解説	Science in 5: vaccines explained	N/A		2021	Published
67	P69	5分でわかるサイエンス：ワクチンに関する迷信と科学	Science in 5: vaccine myths and science	N/A		2021	Published
68	P70	布マスクの作り方	How to make a fabric mask	N/A		2021	Published
69	P71	ヒドロキシクロロキンについて	hydroxychloroquine does not prevent illness or death from COVID-19	N/A		2021	Published
70	P72	5分でわかるサイエンス：さまざまな検査	Science in 5: Tests	N/A		2021	Published
71	P73	新型コロナウイルス感染症 ワクチンの安全性 – 知っておくべきこと	Safety of COVID-19 vaccines – what we need to know	N/A		2021	Published
72	P74	5分でわかるサイエンス：ワクチン、変異株、集団免疫について	Science in 5: vaccines, variants, herd immunity	N/A		2021	Published
73	P75	5分でわかるサイエンス：ワクチン、変異株、接種回数	Science in 5: vaccines, variants, doses	N/A		2021	Published
74	P76	屋内・屋外で運動する時の注意点（屋外）	Mask and exercise outdoors	N/A		2021	Published
75	P77	屋内・屋外で運動する時の注意点（`屋内）	Mask and exercise indoors	N/A		2021	Published
76	P78	5分でわかるサイエンス：ワクチンのタイミングと接種する理由	Science in 5: vaccines, when and why	N/A		2021	Published
77	P79	新型コロナウイルス感染症のワクチン接種について	Vaccines explained – getting COVID vaccines	N/A		2021	Published
78	P80	高齢者とワクチン	Older adults and vaccines	N/A		2021	Published
79	P81	5分でわかるサイエンス：ワクチン、変異株、大人数での集まり	Science in 5: vaccines, variants & mass gatherings	N/A		2021	Published
80	P82	手指消毒剤について	Mythbuster: Hand sanitizers	N/A		2021	Published
81	P83	5分でわかるサイエンス：どのワクチンを接種すべき？副反応は？	Science in 5: Which vaccine should I take and what about side effects?	N/A		2021	Published
82	P84	新型コロナウイルス感染症のさまざまな検査	Different tests for COVID-19	N/A		2021	Published
83	P85	5分でわかるサイエンス：ワクチンの接種量	Science in 5: vaccine dosage	N/A		2021	Published
84	P86	5分でわかるサイエンス：デルタ株とワクチン	Science in 5: Delta variant and vaccines	N/A		2021	Published

85	P87	新型コロナウイルスの感染経路	How the COVID-19 virus is transmitted	N/A		2021	Published
86	P88	新型コロナウイルス感染症の自宅療養:感染者の家族や看病をする人に向けたガイダンス	Home care for COVID 19: Guide for family and caregivers	N/A		2021	Published
87	P89	新型コロナウイルス感染症のワクチン:ファクトシリーズ	COVID-19 vaccination fact	N/A		2021	Published
88	P90	自分に合ったマスクをつけよう	Find a mask that fits your face the best	N/A		2021	Published
89	P91	5分でわかるサイエンス:変異株に関する情報	Science in 5: update on virus variants	N/A		2021	Published
90	P92	5分でわかるサイエンス:屋内と屋外での感染	Science in 5: transmission indoors and outdoors	N/A		2021	Published
91	P93	デルタ株について知っておくべきこと	Delta variants	N/A		2021	Published
92	P94	5分でわかるサイエンス:ワクチンと子ども	Science in 5: vaccine and children	N/A		2021	Published
93	P95	5分でわかるサイエンス:デルタ株について	Science in 5: Delta variant	N/A		2021	Published
94	P96	5分でわかるサイエンス:自宅での安全なケア	Science in 5: safe care at home	N/A		2021	Published
95	P97	5分でわかるサイエンス:ワクチン、妊娠、月経、授乳、生殖能力	Science in 5: vaccines, pregnancy, menstruation, lactation, fertility	N/A		2021	Published
96	P98	5分でわかるサイエンス:糖尿病と新型コロナウイルス感染症	Science in 5: diabetes and COVID-19	N/A		2021	Published
97	P99	5分でわかるサイエンス:妊娠と新型コロナウイルス感染症	Science in 5: pregnancy and COVID-19	N/A		2021	Published
98	P100	パンデミック中のスポーツ観戦	Olympic games	N/A		2021	Published
99	P101	5分でわかるサイエンス:新型コロナウイルス感染症の後遺症	Science in 5: Post COVID condition	N/A		2021	Published
100	P102	5分でわかるサイエンス:ワクチン接種後でも感染するのか?	Science in 5: Can I get infected after vaccination?	N/A		2021	Published
101	P103	新型コロナウイルス感染症のワクチン:授乳、妊娠、生理、不妊	COVID-19 vaccines: breastfeeding, pregnancy, menstruation, fertility	N/A		2021	Published
102	P104	5分でわかるサイエンス:新型コロナウイルスに感染した人もワクチンは必要?	Science in 5: Do I still need the vaccine if I have COVID-19	N/A		2021	Published
103	P105	学校を安全に保つために	Back to school	N/A		2021	Published
104	P106	5分でわかるサイエンス:新型コロナウイルス感染症と授乳	Science in 5: COVID-19 and breastfeeding	N/A		2021	Published
105	P107	みんながヒーローになろう	Do it all - Be a hero	N/A		2021	Published

106	P108	オミクロン株について	Omicron	N/A		2021	Published
107	P109	5分でわかるサイエンス：ワクチンの追加接種	Science in 5: booster shots	N/A		2021	Published
108	P110	5分でわかるサイエンス：たばこと新型コロナウイルス感染症	Science in 5: Tobacco and COVID-19	N/A		2021	Published
109	P111	5分でわかるサイエンス：ワクチンの混合接種と少量接種	Science in 5: mixed and fractional dose	N/A		2021	Published
110	P112	半分の消火活動	Half a fire	N/A		2021	Published
111	P113	新型コロナウイルス感染症のワクチン：ファクトシリーズ「免疫獲得」	Vaccine fact series - immunity	N/A		2021	Published
112	P114	年末年始の感染対策	Holiday tiles	N/A		2021	Published
113	P115	新型コロナウイルス感染症のワクチン：ファクトシリーズ 免疫不全とワクチンの持続効果	Vaccine fact tiles - immunocompromised people and the length of protection	N/A		2022	Published
114	P116	5分でわかるサイエンス：オミクロン株について	Science in 5: Omicron variant	N/A		2022	Published
115	P117	ワクチン接種後でもできることは全てやろう	Vaccine Do It All	N/A		2022	Published
116	P118	5分でわかるサイエンス：インフルエンザと新型コロナウイルス感染症	Science in 5: : Episode #59 - flu and COVID-19	N/A		2022	Published
117	P119	適切な換気	ventilation	N/A		2022	Published
118	P120	適切な換気	ventilation	N/A		2022	Published
119	P121	オミクロン株について（2022年1月版）	Updates on Omicron	N/A		2022	Published
120	P122	5分でわかるサイエンス：なぜ専門家はオミクロン株を懸念しているのか？	Science in 5: : Episode #64 - Why are experts concerned about Omicron?	N/A		2022	Published
121	P123	5分でわかるサイエンス：パンデミックにおける医療廃棄物をご存じですか？	Science in 5: : Episode #65 - Medical waste	N/A		2022	Published
122	P124	5分でわかるサイエンス：免疫について理解する	Science in 5: : Episode #67 - Understanding immunity	N/A		2022	Published
123	P125	5分でわかるサイエンス：新型コロナ後遺症「ロング・コビット」の最新情報	Science in 5: : Episode #68 - Update on Long COVID	N/A		2022	Published

124	P126	5分でわかるサイエンス：これから開発される新しいワクチンのこと	Science in 5: Episode #70 - Upcoming new vaccines	N/A		2022	Published
125	P127	5分でわかるサイエンス：ワクチンと子ども	Science in 5: Episode #71 - COVID-19 vaccines and children	N/A		2022	Published
126	P128	5分でわかるサイエンス：オミクロン株亜種のリスク	Science in 5: Episode #75 - Omicron sub variant risk	N/A		2022	Published
127	P129	5分でわかるサイエンス：メンタルヘルス	Science in 5: Episode #74 - Omicron sub variant risk	N/A		2022	Published

#	文書 番号	タイトル(日本語訳)	タイトル(英文オリジナル)	更新 版 Ver.	英文公開日	日本語 版公 開年	公開状態
1	Q01 (P14)	SARS-CoV-2 の起源	Origin of SARS-CoV-2		26/03/2020	2020	Published
2	Q02 (P14)	生きた動物または動物製品を扱う市場における動物からヒトへの新興病原体の伝播のリスクを減少させるためのWHOによる推奨事項	WHO recommendations to reduce risk of transmission of emerging pathogens from animals to humans in live animal markets or animal product markets		26/03/2020	2020	Published
3	Q03 (P15)	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) とその原因となるウイルスの命名について	Naming the COVID-19 and the virus that causes it / why do the virus and the disease have different names / what name does WHO use for the virus?		Unknown	2020	Published
4	Q04 (H05)	COVID-19の疑いまたは確定患者をケアする医療従事者の感染予防および管理に関するQ&A	Q&A on infection prevention and control for health care workers caring for patients with suspected or confirmed 2019-nCoV	0	01/03/2020	2020	Archived
5	Q04 (H05)	COVID-19の疑いまたは確定患者をケアする医療従事者の感染予防および管理に関するQ&A	Q&A on infection prevention and control for health care workers caring for patients with suspected or confirmed 2019-nCoV	1	31/03/2020	2020	Published
6	Q05 (P16)	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に関するQ&A	Q&A on coronaviruses (COVID-19)	0	08/04/2020	2020	Archived
7	Q05 (P16)	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に関するQ&A	Coronavirus disease (COVID-19)	1	13/05/2021	2021	Published
8	Q06 (P17)	大規模集会と COVID-19 に関する Q&A	Q&A on mass gathering and COVID-19	0	01/04/2020	2020	Archived
9	Q06 (P17)	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) : 大規模集会 (マスギャザリング)	Coronavirus disease (COVID-19): Mass gatherings	1	14/04/2020	2021	Published

10	Q07 (G32)	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行下における予防接種:よくある質問 (Guiding principles for immunization activities during the COVID-19 pandemicの付録資料)	Immunization in the context of COVID-19 pandemic: Frequently Asked Questions (*Annex to Guiding principles for immunization activities during the		16/04/2020	2020	Published
11	Q08 (P40)	Q&A: 公共スペースや建物内での換気や空調とCOVID-19	Q&A: Ventilation and air conditioning in public spaces and buildings and COVID-19		29/07/2020	2020	Published
12	Q09 (H17)	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) と子供のマスク使用に関するQ&A (新型コロナウイルス感染症 (COVID-19))	Q&A: Children and masks related to COVID-19 (relate to the Advice on the use of masks in the context of COVID-19)	0	21/08/2020	2020	Archived
13	Q09	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19): 子供とマスク	Coronavirus disease (COVID-19): Children and masks	1	07/03/2022	2022	Published
14	Q10	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19): 集団免疫とロックダウン	Coronavirus disease (COVID-19): Herd immunity, lockdowns and COVID-19		15/10/2020	2021	Published
15	Q11	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19): 家族と介護者のための在宅療養	Coronavirus disease (COVID-19): Home care for families and caregivers	0	13/08/2020	2021	Published
16	Q11	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19): 家族と介護者のための在宅療養	Coronavirus disease (COVID-19): Home care for families and caregivers	1	12/04/2022	2022	Published
17	Q12	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19): 小規模な集会	Coronavirus disease (COVID-19): Small public gatherings		06/08/2020	2021	Published
18	Q13	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19): ワクチン	Coronavirus disease (COVID-19): Vaccines		28/10/2021	2021	Published
19	Q13	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19): ワクチン	Coronavirus disease (COVID-19): Vaccines		16/03/2022	2022	Published
20	Q14	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19): 母乳育児	Coronavirus disease (COVID-19): Breastfeeding		07/05/2020	2021	Published
21	Q15	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19): 非保健医療施設における清掃と消毒	Coronavirus disease (COVID-19): Cleaning and disinfecting surfaces in non-health care settings		16/05/2020	2021	Published
22	Q16	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19): 気候変動	Coronavirus disease (COVID-19): Climate change		22/04/2020	2021	Published
23	Q17	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19): 接触者追跡	Coronavirus disease (COVID-19): Contact tracing		31/05/2021	2022	Published

24	Q18	Q&A (COVID-19) :デキサメタゾン	Coronavirus disease (COVID-19): Dexamethasone	0	16/10/2020	2021	Archived
25	Q18	Q&A (COVID-19) :デキサメタゾン	Coronavirus disease (COVID-19): Dexamethasone	1	16/10/2021	2022	Published
26	Q20	Q&A (COVID-19) :食品の安全と栄養	Coronavirus disease (COVID-19): Food safety and nutrition		14/08/2020	2021	Published
27	Q22	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) :消費者のための食の安全	Coronavirus disease (COVID-19): Food safety for consumers		14/08/2020	2022	Published
28	Q23	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) :職場における安全衛生	Coronavirus disease (COVID-19): Health and safety in the workplace		26/06/2020	2021	Published
29	Q24	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) :感染経路について	Coronavirus disease (COVID-19): How is transmitted?		30/04/2021	2021	Archived
30	Q24	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) :感染経路について	Coronavirus disease (COVID-19): How is transmitted?		23/12/2021	2022	Published
31	Q25	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) :ヒドロキシクロロキン	Coronavirus disease (COVID-19): Hydroxychloroquine	0	19/06/2020	2021	Archived
32	Q25	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) :ヒドロキシクロロキン	Coronavirus disease (COVID-19): Hydroxychloroquine	1	30/04/2021	2022	Published
33	Q26	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) :マスク	Coronavirus disease (COVID-19): Masks	0	01/12/2020	2021	Archived
34	Q26	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) :マスク	Coronavirus disease (COVID-19): Masks	1	05/01/2022	2022	Published
35	Q27	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) :妊娠と出産	Coronavirus disease (COVID-19): Pregnancy and childbirth	0	02/09/2020	2021	Archived
36	Q27	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) :妊娠と出産、産後	Coronavirus disease (COVID-19): Pregnancy and childbirth	1	15/03/2022	2022	Published
37	Q28	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) :高齢者のリスクと安全	Coronavirus disease (COVID-19): Risks and safety for older people		08/05/2020	2021	Published
38	Q29	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) :学校	Coronavirus disease (COVID-19): Schools		18/09/2020	2021	Published
39	Q30	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) :インフルエンザとの類似点と相違点	Coronavirus disease (COVID-19): Similarities and differences with influenza		30/09/2021	2021	Published
40	Q31	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) :ホテル・宿泊施設での滞在	Coronavirus disease (COVID-19): Staying at hotels and accommodation establishments		26/08/2020	2021	Published
41	Q32	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) :タバコ	Coronavirus disease (COVID-19): Tobacco	0	27/05/2020	2021	Archived
42	Q32	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) :タバコ	Coronavirus disease (COVID-19): Tobacco	1	25/05/2022	2022	Published

43	Q33	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) : 一般の方への旅行に関するアドバイス	Coronavirus disease (COVID-19): Travel advice for the general public		02/07/2021	2021	Published
44	Q34	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) : 換気と空調	Coronavirus disease (COVID-19): Ventilation and air conditioning	0	29/07/2020	2021	Archived
45	Q34	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) : 換気と空調	Coronavirus disease (COVID-19): Ventilation and air conditioning	1	23/12/2021	2022	Published
46	Q35	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) : 医療施設の換気と空調	Coronavirus disease (COVID-19): Ventilation and air conditioning in health facilities	0	29/07/2020	2021	Archived
47	Q36	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) : 女性に対する暴力	Coronavirus disease (COVID-19): Violence against women		15/04/2020	2021	Published
48	Q37	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) : ホテルおよび宿泊施設での勤務	Coronavirus disease (COVID-19): Working in hotels and other accommodation establishments		26/08/2020	2021	Published
49	Q38	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) : 罹患後症状	Coronavirus disease (COVID-19): Post COVID-19 condition		16/12/2021	2022	Published
50	Q39		Coronavirus disease (COVID-19) and people living with HIV		29/07/2022		Preparing
51	Q40		Coronavirus disease (COVID-19): Vaccines safety		24/01/2022		Preparing